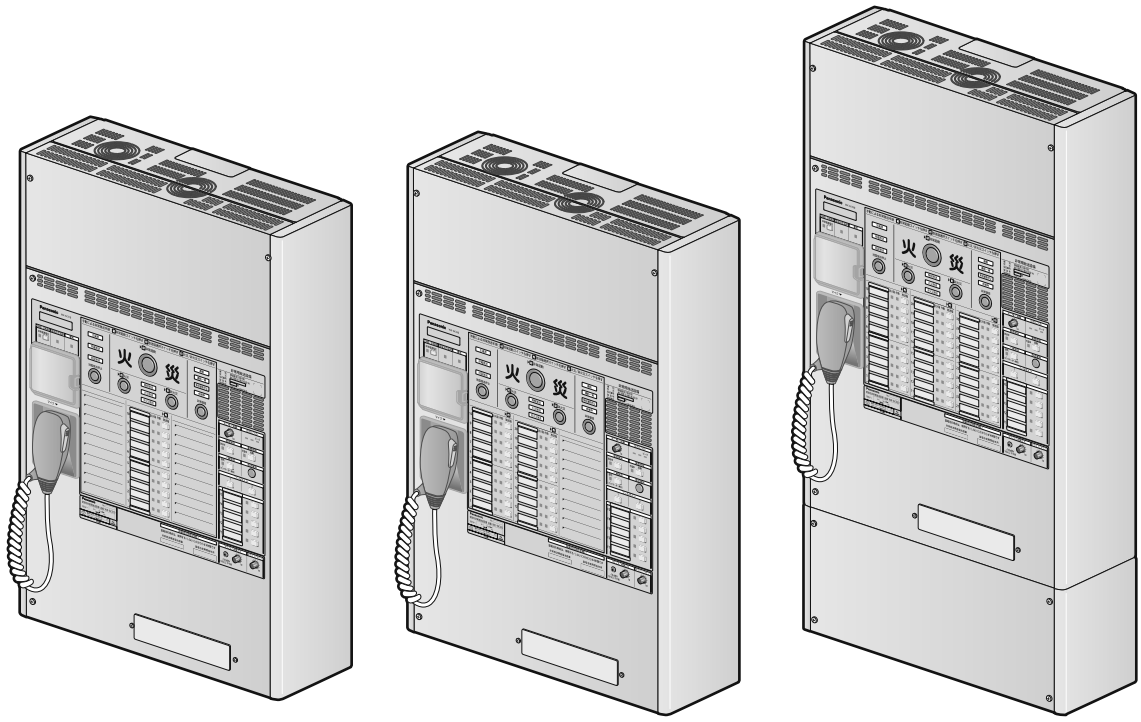
Panasonic

取扱説明書

施工説明書別添付

壁掛形非常用放送設備

品番 WK-EK310, WK-EK320, WK-EK330



WK-EK310　　WK-EK320　　WK-EK330

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（5〜6ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

本機は、小規模から中規模の建築物に適した壁掛形非常用放送設備（以下、本体）です。非常放送以外に、緊急地震放送、緊急放送、業務放送が可能です。

非常放送

- 音声警報により、発報放送・火災放送・非火災放送を行います。
- 音声警報のメッセージは、「日本語」と「英語」「中国語」「韓国語」から選択して放送が可能です。標準で64パターンの階情報メッセージを内蔵しています。
- 非常放送時には、音声によって操作方法を指示する操作指示ガイダンスと、操作場所を表示灯で示す操作指示灯により、非常放送時の機器操作を支援します。

緊急地震放送

緊急地震速報受信端末（別売品）に連動して、本機に内蔵された緊急地震放送用メッセージを、非常放送よりも優先して放送します。※

緊急放送への対応

- 緊急放送スイッチを装備（機器前面）し、緊急事態発生時に、スイッチ操作1つで優先放送が可能な状態となります。
- 緊急放送制御端子をもち、外部からの起動信号により自動的に緊急放送状態へ移行することができます。
- 外部に音源機器を接続し、緊急用放送メッセージを放送することができます。
- SDカードに内蔵した緊急放送用メッセージ（業務放送用メッセージも可能）を放送することができます。

業務放送

- 放送したい場所をあらかじめ設定し、スイッチ1つでまとめて放送できるブロック放送が可能です。
- 上り4音／下り4音を含む、計7種類のコールサインを内蔵しています。
- ラジオチューナーWU-T60B（別売品）を組み込むことが可能です。
- マルチリモコンマイクWR-MC100B（別売品）やリモコンマイクWR-201／WR-205A／WR-210A（別売品）を接続し、遠隔からの業務放送ができます。
- 業務放送時に、BGM放送の音量を減衰する、ミュート回路を内蔵しています。
- チャイム音源（ウェストミンスターの鐘　他2種）を内蔵しています。

メッセージ音声の内蔵

- 10種類のメッセージを内蔵しています。機器前面のファンクションスイッチで放送することができます。
- SDカード内の音源ファイルを再生することができます。（2曲）

自動点検機能

蓄電池電圧点検、非常リモコン通信点検、スピーカー回線短絡点検、非常／業務放送兼用マイク点検、電力増幅ユニット点検、コンピューター異常、主回路／非常電源電圧点検、主電源電圧点検、出力端子過電流点検の自己診断機能付です。

※本機は、緊急地震速報の受信機能はありません。緊急地震放送を行うには別途、緊急地震速報受信端末が必要です。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....1冊
施工説明書.....1冊
「非常放送のしかた」手順書.....1枚
保証書.....1式

※設置工事に使用する付属品については、施工説明書に記載しています。

商標および登録商標について

- SD、SDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- その他、本文中の商品名は各社の登録商標または商標です。

略称について

このドキュメントでは、以下の略称を使用しています。
- SDHCメモリーカード、SDメモリーカードをSDカードと表記しています。
- パーソナルコンピューターをPCと表記しています。

免責について

この商品は、感知器などからの信号を受信した場合に非常放送を放送する設備であり、この商品単独で避難誘導するものではありません。
弊社はいかなる場合も以下に関して、一切の責任を負わないものとします。

①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
②お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
④本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声できないことなどで被る不便・損害・被害
⑤第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
⑥本商品の点検が適切に行われていない結果、発生した損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

オープンソースソフトウェアについて

Revised 3-Clause BSD License for ColumbiaUniversity Kermit Software
Copyright © 1981-2011,
Trustees of Columbia University in the City of New York.
All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Columbia University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

もくじ

ご使用前に

はじめに……2
商品概要 …… 2
付属品をご確認ください …… 2
商標および登録商標について …… 2
略称について …… 3
免責について …… 3
著作権について …… 3
記号について …… 3
安全上のご注意……5
使用上のお願い……7
各部のなまえと働き……8

操作

非常放送のしくみ…… 15
非常放送の起動方法 …… 15
非常放送の動作モード …… 15
火災放送移行タイマーと一斉火災放送移行タイマー …… 16
放送内容について …… 16
設定内容の確認について …… 17
放送の種類について…… 18
非常放送のしかた…… 19
非常放送のしかた（1）感知器起動 …… 20
非常放送のしかた（2）感知器起動 …… 21
非常放送のしかた（3）非常電話・発信機起動 …… 22
非常放送のしかた（4）手動起動（発報） …… 23
非常放送のしかた（5）手動起動（火災） …… 24
緊急地震放送について…… 25
緊急地震放送とは …… 25
緊急地震放送の動作 …… 25
緊急地震放送を行っているときの非常放送について …… 26
緊急放送のしかた…… 27
業務放送のしかた…… 29
業務放送について …… 29
優先順位について …… 30
相互通話のしかた…… 34

必要なとき

日常点検…… 35
電源の点検 …… 35
異常時の表示について …… 36
保守点検…… 37
自動点検 …… 37
蓄電池点検結果の確認 …… 38
蓄電池の交換について …… 39
保守点検のお願い …… 39
故障かな!?…… 40
保証とアフターサービス…… 42

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠ 危険


禁止

蓄電池に強い衝撃を与えない
ハンマーなどでたたいたり、クギなどを打ち込んだりしないでください。発火･破裂の原因となります。

蓄電池の⊕⊖端子をショートさせない
発熱、発火の原因となります。

蓄電池を火の中に入れない
火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。


分解禁止

蓄電池を分解しない
電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。

⚠ 警告


禁止

異物を入れない
水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。
- 直ちに分電盤の電源を切り、販売店に連絡してください。

周囲に物を置かない
非常時の操作を妨げる原因となります。
- 指定範囲は常に整理、整頓してください。


分解禁止

分解しない、改造しない
火災や感電の原因となります。
- 修理や点検は販売店にご連絡ください。


水ぬれ禁止

機器の上に水などの入った容器を置かない
水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。
- 直ちに分電盤の電源を切り、販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

工事は販売店に依頼する
工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。
- 必ず販売店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる
煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。
- 直ちに分電盤の電源を切り、販売店に連絡してください。

定期的に点検をする
非常時に適切な避難誘導が行えない原因となります。
- 点検は、販売店や保守契約店に依頼してください。

⚠ 注意

禁止

通風孔をふさがない
内部に熱がこもり、火災の原因となります。

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する
感電の原因となります。

使用上のお願い

保守点検契約のお願い
消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持台帳への記録が**義務づけられています**。建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または総務大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。非常用放送設備が正しく動作するために、保守点検契約の締結をおすすめします。保守点検契約の締結については、販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。
※保守点検契約を締結していただくということは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検を引き受けることになりますので、**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります**。

日常点検をしてください。
万一の際（非常時）、機器が正常に動作するよう日常点検を行ってください。特に非常電源の点検は必ず行ってください。（日常点検の方法は、35ページをご覧ください）
蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。点検時に容量不足があれば、新品と交換してください。

日常点検時に異常を発見した場合は、直ちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

必ず定期点検を行ってください。
日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、すべてではありません。必ず定期点検を行ってください。

非常放送の設定内容は変更できません。
非常用放送設備は、設定された仕様を管轄消防署に届けているため、安易に設定内容を変更することはできません。運用開始後の非常放送設定の変更は、管轄消防署の確認が必要です。

本機内部には、電圧の高い部分がありますので、操作パネル部は絶対に開けないでください。

分電盤のブレーカーは絶対に切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。
非常用放送設には、停電時でも放送できるように非常電源が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので、本機を結線した分電盤のブレーカーは、絶対に切らないようにしてください。

使用温度範囲は、0 ℃～+ 45 ℃です。
この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

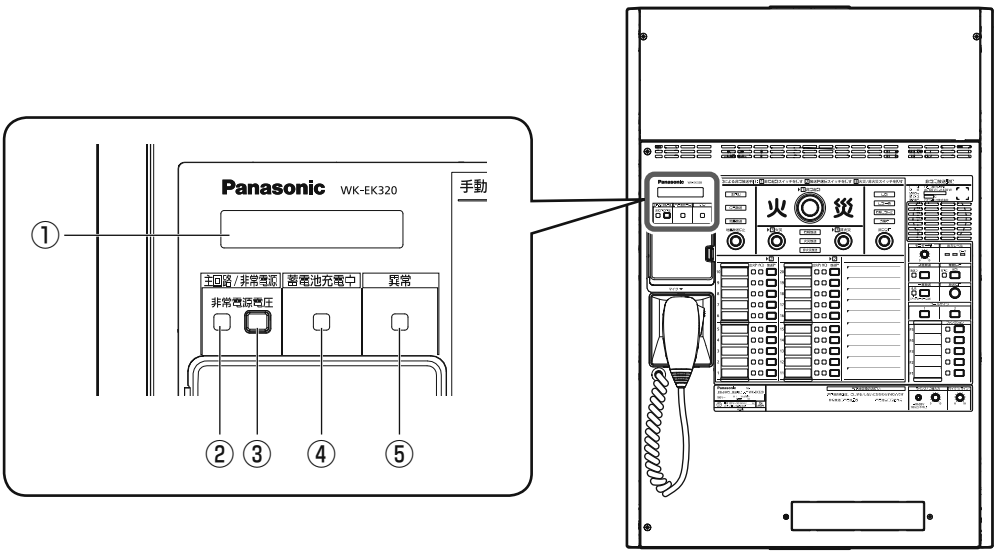
設置について
- **本機の上や周囲に物を置かないでください。**
  本機の上部は通風孔になっていますので、物を置かないでください。故障や落下の原因となります。
  また、左右0.3 m以内、操作面1 m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。
- **「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。**
  設定された起動方式を確認し、非常時に確実に操作できるように、「非常放送のしかた」手順書は本機の近くに置いてください。設定起動は、表題の下に記載しています。
  本機の上には絶対に置かないでください。

蓄電池について
蓄電池は、日光、火などにより過度の熱にさらされることのないようにしてください。

お手入れのしかた
ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

重要
- 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

各部のなまえと働き



① 液晶画面

非常放送時の操作指示、異常発生時の内容、動作状態などを表示します。

② 主回路／非常電源表示灯［主回路/非常電源］（緑色）

- 主回路および非常電源の状態を表示します。
- 主回路の電源（DC24 V）が動作下限電圧以上のときに点灯します。
- 非常電源電圧点検スイッチを押すと、非常電源の状態を表示します。
  点灯（緑色）：正常
  消灯　　：異常（保守契約店または販売店にご連絡ください）

③ 非常電源電圧点検スイッチ［非常電源電圧］

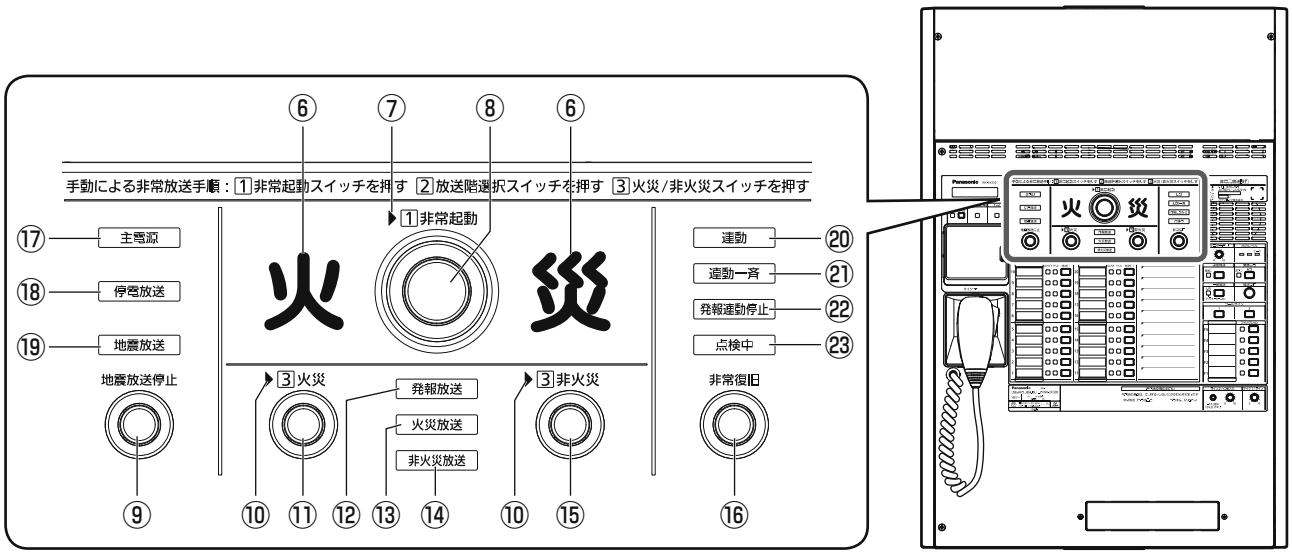
非常電源電圧を点検するときに押します。

④ 非常用蓄電池充電中表示灯［蓄電池充電中］（緑色）

蓄電池を充電しているときに点灯（緑色）します。

⑤ 異常表示灯［異常］（赤色）

異常が発生したときやコンピューター制御スイッチ（14ページ）を「切」にしたときに点灯します。
異常内容は液晶画面に表示されます。



⑥ 火災表示灯［火災］（赤色）

非常起動すると点滅または点灯します。

点滅の場合：階別信号（EL）による非常起動、または第1タイマー（火災放送移行タイマー）作動中など

点灯の場合：「階別信号（EL）＋火災確認信号（EF）」による非常起動など

⑦ 非常起動指示灯［▶］（橙色）

- 発報放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点滅します。
- 火災放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点灯します。
- 非火災放送中は、非常起動スイッチの指示灯が点滅します。

⑧ 非常起動スイッチ［非常起動］

手動で「非常放送」を放送するときに押します。

発報放送時または火災音信号鳴動時に、このスイッチを押して「火災放送」を放送することができます。

⑨ 緊急地震放送停止スイッチ［地震放送停止］

緊急地震放送を手動で停止させたいときに押します。

⑩ 音声警報選択指示灯［▶］（橙色）

- 発報放送中は、火災放送スイッチおよび非火災放送スイッチの指示灯が点滅します。
- 火災放送中は、火災放送スイッチの指示灯が点灯し、非火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- 非火災放送中は、非火災放送スイッチの指示灯が点灯し、火災放送スイッチの指示灯は点滅します。
- 状況を確認して、放送内容に誤りがあれば選択し直して正しい放送を行ってください。

⑪ 火災放送スイッチ［火災］

火災を確認したときに押します。「火災放送」が放送されます。

⑫ 発報放送表示灯［発報放送］（橙色）

設定された回数の「発報放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑬ 火災放送表示灯［火災放送］（赤色）

- 火災放送スイッチを押すと点灯します。
- 「火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑭ 非火災放送表示灯［非火災放送］（緑色）

- 非火災放送スイッチを押すと点灯します。
- 「非火災放送」を放送したあとは、状態表示のため次の段階に移行するまで点滅します。

⑮ 非火災放送スイッチ［非火災］

火災でないことを確認したときに押します。「非火災放送」が放送されます。

⑯ 非常復旧スイッチ［非常復旧］

非常放送を復旧するときに押します。ただし、感知器が動作している間、非常放送状態は復旧しません。

⑰ 主電源表示灯［主電源］（緑色）
- 常用電源（AC100 V）が供給されているときに、緑色に点灯します。
- 停電動作時は消灯します。

⑱ 停電放送表示灯［停電放送］（緑色）
常用電源停電時に、緊急地震放送、非常放送、緊急放送、業務放送を行っているときに点灯します。

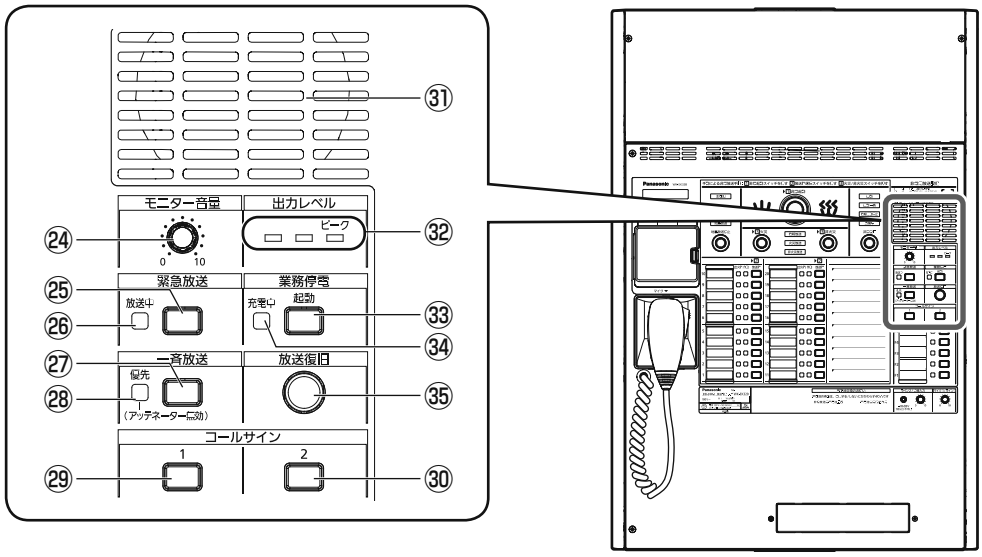
⑲ 緊急地震放送表示灯［地震放送］（橙色）
緊急地震放送中に点滅します。

⑳ 連動表示灯［連動］（赤色）
点灯しているときに感知器や非常電話または、発信機などからの信号を受信すると、出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。設定は書き込みで行います。

㉑ 連動一斉表示灯［連動一斉］（赤色）
点灯しているときに感知器や非常電話・発信機などからの信号を受信すると、全館一斉に「非常放送」が放送されます。設定は書き込みで行います。

㉒ 発報連動停止表示灯［発報連動停止］（赤色）
点灯しているときに感知器からの階別信号（EL）を受信しても発報放送を行わず、火災音信号（ピーピーピー）が本機のモニタースピーカーから鳴ります。設定は書き込みで行います。

㉓ 点検中表示灯［点検中］（緑色）
通常は消灯しています。保守点検などで点検モードになっているときに点滅します。点検のしかたによってはスピーカー回線が遮断されることがありますので、表示灯が消灯していることを確認して放送を行ってください。



㉔ モニター音量つまみ［モニター音量　0、10］
- モニタースピーカーの音量を調節します。
- 非常放送時、緊急放送時はつまみの状態に関係なく最大音量となります。

㉕ 緊急放送スイッチ［緊急放送］
- 火災発生以外の災害、事故などの緊急事態が発生し、放送中の業務放送を止めて最優先で放送を行うときに押します。
- 押すと、あらかじめ登録された放送先への緊急放送が可能な状態になります。放送したい階の放送階選択スイッチまたは一斉放送スイッチを押して、放送先を追加、変更することができます。
- 業務用蓄電池（別売品）を接続することにより、常用電源停電中に押すと電源供給が行われ、緊急放送を行うことができます。

㉖ 緊急放送表示灯［緊急放送　放送中］（橙色）
緊急放送スイッチを押すと、点灯します。非常リモコンから緊急起動を行った場合も点灯します。

㉗ 一斉放送スイッチ［一斉放送］
全館に一斉放送するときに押します。一斉放送に設定した放送階の階別作動表示灯が点灯します。

㉘ 優先一斉放送表示灯［一斉放送　優先（アッテネーター無効）］（緑色）
一斉放送スイッチに優先（アッテネーター無効）が設定されている場合、一斉スイッチを押すと点灯します。非常リモコンから一斉放送を行った場合も点灯します。

㉙ コールサイン1スイッチ［コールサイン　1］
本機から放送先が選択されているときに押すと、コールサイン1に設定した音が放送されます。出荷時設定では、上り4音が放送されます。
コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

㉚ コールサイン2スイッチ［コールサイン　2］
本機から放送先が選択されているときに押すと、コールサイン2に設定した音が放送されます。出荷時設定では、下り4音が放送されます。
コールサインは業務放送時に使用できます。非常放送、緊急放送時は放送されません。

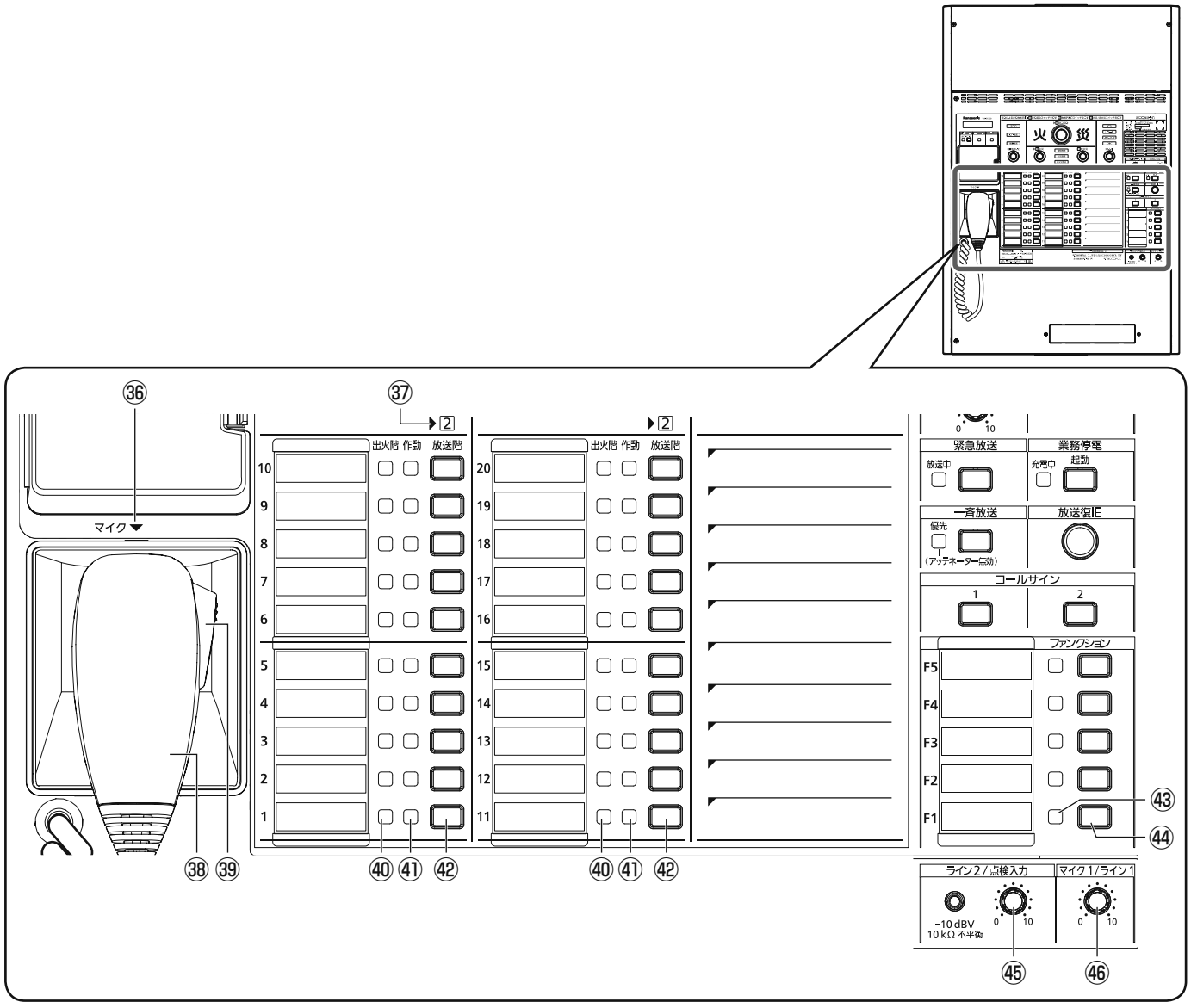
㉛ モニタースピーカー
放送状態を確認できます。ハウリング防止のため、マイクスイッチを押すとモニタースピーカーからの音は「切」になります。

㉜ 出力レベルメーター［出力レベル　ピーク］
- 本機からの音量の出力レベルを表示します。
- 赤色の表示灯（ピークレベル）が連続点灯しないように接続された機器の音量を調節してください。

㉝ 業務停電起動スイッチ［業務停電　起動］
常用電源停電時に業務放送を行う場合に、業務用蓄電池（別売品）からの電源供給を行うためのスイッチです。
※本スイッチは、業務用蓄電池が接続されていない場合は、動作しません。

㉞ 業務用蓄電池充電中表示灯［業務停電　充電中］（緑色）
業務用蓄電池充電中に点灯します。
※本表示灯は、業務用蓄電池が接続されていない場合は、消灯します。

㉟ 放送復旧スイッチ［放送復旧］
放送終了後に押します。放送階選択スイッチ、ファンクションスイッチで選択した放送先がすべて解除されます。操作パネルの緊急放送スイッチや業務停電起動スイッチによる停電起動中に何も放送されていない状態で押すと、業務用蓄電池からの電源供給は遮断され、停電放送が終了します。



㊱ マイク指示灯［▼］（橙色）

- 非常放送時、点滅します。（業務放送時は点灯・点滅しません）
- マイク放送している間は点灯します。

㊲ 放送階選択指示灯［▶］（橙色）

- 非常時（階別信号（EL）など外部起動で非常動作になった場合）点灯します。
- 手動による非常放送動作時（非常起動スイッチを押す）は点滅します。階別信号入力または手動入力（放送階選択スイッチを押す）で点灯します。

㊳ 非常、業務放送兼用マイクロホン（以下、本体マイク）

- 業務放送中に火災感知器、発信機または非常電話からの起動で非常放送が入った場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送（音声警報）が優先されます。避難誘導などを放送するときはマイクスイッチを一度離し、再度マイクスイッチを押してください。
- 非常放送時、マイク放送は音声警報より優先されます。適切な避難誘導を行ってください。
- 本体マイクからの業務放送時にライン2、ライン3に接続した機器、ラジオチューナーの音声をミュートすることができます。

㊴ マイクスイッチ

本機の本体マイクから放送を行う場合に押します。マイクを取り、マイクスイッチを押しながら放送します。

㊵ 出火階表示灯［出火階］（赤色）
非常放送動作時、点灯で出火階を表示します。（階別信号（EL）により起動を受けた階の表示灯が点灯します）

㊶ 階別作動表示灯［作動］（緑色）
- 放送階選択スイッチ、一斉放送スイッチ、ファンクションスイッチにより放送先を選択した場合に点灯します。
- 感知器や非常電話または発信機からの起動により非常放送状態になった場合、出火階と連動階が点灯します。
- 表示灯が点滅したときは、点滅した階のスピーカー回線が短絡しています。このとき、故障表示の異常表示灯が点灯し、液晶画面に短絡したスピーカー回線番号が表示されます。販売店または保守契約店にご連絡ください。

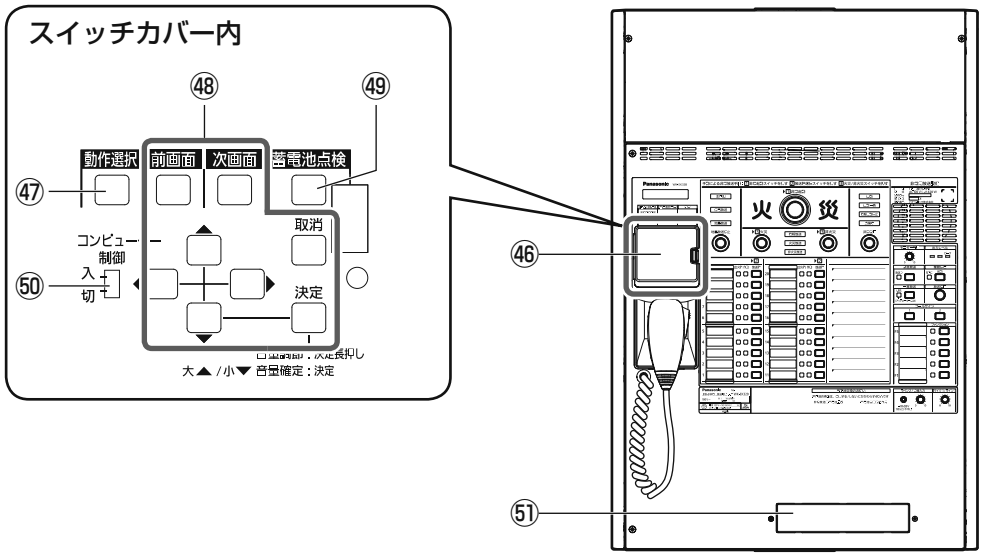
㊷ 放送階選択スイッチ［放送階］
放送したい階を選択するときに押します。（階別作動表示灯が点灯します）再度押すと、選択を解除します。（階別作動表示灯が消灯します）

㊸ ファンクション作動表示灯［F1］～［F5］（緑色）
ファンクションスイッチを押すと点灯します。

㊹ ファンクションスイッチ［F1］～［F5］
- ブロック指定した場所に放送するときに押します。（選択したファンクション作動表示灯が点灯します）再度押すか放送復旧スイッチを押すと、選択が解除されます。（ファンクション作動表示灯が消灯します）
- あらかじめ設定された本体の内蔵メッセージやSDカード音源の放送や、外部機器の制御ができます。

㊺ ライン2／点検入力［ライン2/点検入力 （－10 dBV 10 kΩ 不平衡)］
CDプレーヤーなどの外部機器が接続できます。ステレオ入力対応。（本機内部でモノラルにミックスされます）

㊻ マイク1／ライン1［マイク1/ライン1］
接続した機器の音量を調節します。出力レベルメーターが赤色に連続点灯（ピークレベル）しないように調節してください。



㊻ スイッチカバー

ドアを開くと、蓄電池点検や設定のためのスイッチがあります。

㊼ 動作選択スイッチ［動作選択］

押すたびに「通常動作」→「設定情報」→「蓄電池点検結果」→「点検」→「書き込み」と切り替わります。ただし、非常放送中および緊急放送中に切り替えることはできません。

通常動作	：通常はこの状態にします。
設定情報	：発信機手動起動設定、発報放送回数、第1タイマー、第2タイマーの各設定内容を確認する場合はこの状態にします。
蓄電池点検結果	：最新の蓄電池点検結果と点検時刻を確認する場合はこの状態にします。
点検	：点検を行う場合はこの状態にします。
書き込み	：機器構成、非常放送設定、業務放送設定などの書き込みを行う場合はこの状態にします。

㊽ 書き込み設定スイッチ

機器構成、非常放送設定、業務放送設定などの書き込みを行うスイッチです。詳しくは、施工説明書をお読みください。

㊾ 蓄電池点検スイッチ［蓄電池点検］

蓄電池の電圧状態を点検するときに押します。

㊿ コンピューター制御スイッチ［コンピューター制御］

- 通常は、必ず「入」にしてください。
- 本機はCPUにより制御されています。万一、正常動作していないときは、本スイッチを「切」にしてください。異常表示灯とすべての階別作動表示灯が点灯し、本体マイクおよびマイク1／ライン1入力で一斉放送（アッテネーター無効）を行うことができます。
  ※この一斉放送は、全スピーカー回線からの放送となり、一斉スイッチのスピーカー回線設定は無効となります。
- コンピューター制御スイッチを「切」にすると、異常表示灯とすべての階別作動表示灯が点灯します。

㊶ チューナーブランクパネル

ラジオチューナーユニット（別売品）を取り付けることができます。

非常放送のしくみ

非常放送の起動方法

非常放送は、火災発生時に避難誘導を行うための放送です。自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話に連動して放送されます。また、本機や非常リモコンからの手動操作によりマイク放送をすることもできます。
非常放送を起動させるのは、以下の3つの方法があります。

- 自火報感知器起動
  自動火災報知設備の感知器が作動すると、非常用放送設備が連動して感知器が作動した出火階とその直上階などの連動階スピーカーから自動的に放送されます。
- 非常電話・発信機起動
  非常電話や発信機が起動すると、非常用放送設備が連動してその階（非常電話・発信機が起動した階）とその直上階などの連動階スピーカーから自動的に放送されます。
- 手動起動
  火災発生情報などにより操作者の判断で非常起動スイッチを押し、非常起動の後、放送階選択スイッチで選んだ階のスピーカーから放送されます。

操作



・操作手順については、「非常放送のしかた」（19ページ）をお読みください。

非常放送の動作モード

非常放送の動作モードは、設置時に設定済みです。設定の変更は所轄の消防署の確認が必要です。販売店にご相談ください。

●連動・連動一斉モード

自火報感知器、発信機または非常電話からの非常放送時の動作を設定します。

連動　　：自火報感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送時に出火階と連動階に放送されます。
連動一斉：自火報感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送時に全館一斉に放送されます。

●発報・火災モード

発信機または非常電話、手動起動により非常放送を行う場合、すぐに火災放送を行うかの設定をします。

発報　　：起動がかかると、感知器発報放送が流れ、そのあとすぐに火災放送になります。
火災　　：起動がかかると、感知器発報放送が流れず、すぐに火災放送になります。

●発報連動・発報連動停止モード

自火報感知器が起動したときに感知器発報放送を行うかの設定をします。

発報連動　　：起動がかかると、感知器発報放送が流れ、次の段階で火災放送になります。
発報連動停止：起動がかかっても、感知器発報放送は流れません。火災音信号と音声指示ガイダンスがモニタースピーカーから出力されます。次の段階で火災放送になります。

火災放送移行タイマーと一斉火災放送移行タイマー

●火災放送移行タイマー（第1タイマー）について

このタイマーは、感知器発報放送から火災放送に自動的に移行するためのものです。0秒～59分59秒に設定できます。（出荷時は5分に設定）

●一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）について

このタイマーは、火災放送開始後、火災放送を全館一斉に放送する一斉火災放送に自動的に移行するもので、以下の設定ができます。（出荷時は5分に設定）

OFF　　：一斉火災放送に移行しません。
0秒～59分59秒：設定した時間で一斉火災放送に移行します。

重要

・法律上の設定では、火災放送移行タイマーは2～5分、一斉火災放送移行タイマーはOFFまたは0秒、2～5分です。
タイマーの設定変更は所轄消防署の指導にしたがってください。

放送内容について

非常放送は、自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話が起動すると自動的にシグナル音と音声メッセージが放送されます。

感知器発報放送：感知器などが発報したときに火災の発生を確認していることを知らせます。
＜放送例＞　ピンポン ピンポン ピンポン（シグナル音）
ただいま○階の火災感知器が作動しました。
係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。

火災放送　　：火災が発生したことを知らせます。
＜放送例＞　ピンポン ピンポン ピンポン（シグナル音）
火事です！火事です！○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
ビュー ビュー ビュー（シグナル音）

非火災放送　：確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせます。
＜放送例＞　ピンポン ピンポン ピンポン（シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。
ご安心ください。

memo

・音声メッセージは、日本語以外に英語、中国語、韓国語が内蔵されています。変更は所轄消防署の確認が必要です。販売店にご相談ください。

■ マイク放送について

- マイク放送は、音声警報より優先して放送されます。状況を把握し、マイクで放送してください。
- マイクで業務放送中に感知器や非常電話・発信機などからの階別信号（EL）を受信した場合は、マイクでの放送が遮断され非常放送（音声警報）が優先されます。避難誘導などを放送するときは、マイクのスイッチを一度離し、再度スイッチを押してください。
- マイク放送後は、下記の状態になります。
「発報放送」中のマイク放送後　：無音、第1タイマー継続
「非火災放送」中のマイク放送後：無音
「火災放送」中のマイク放送後　：第2シグナル音が鳴ります

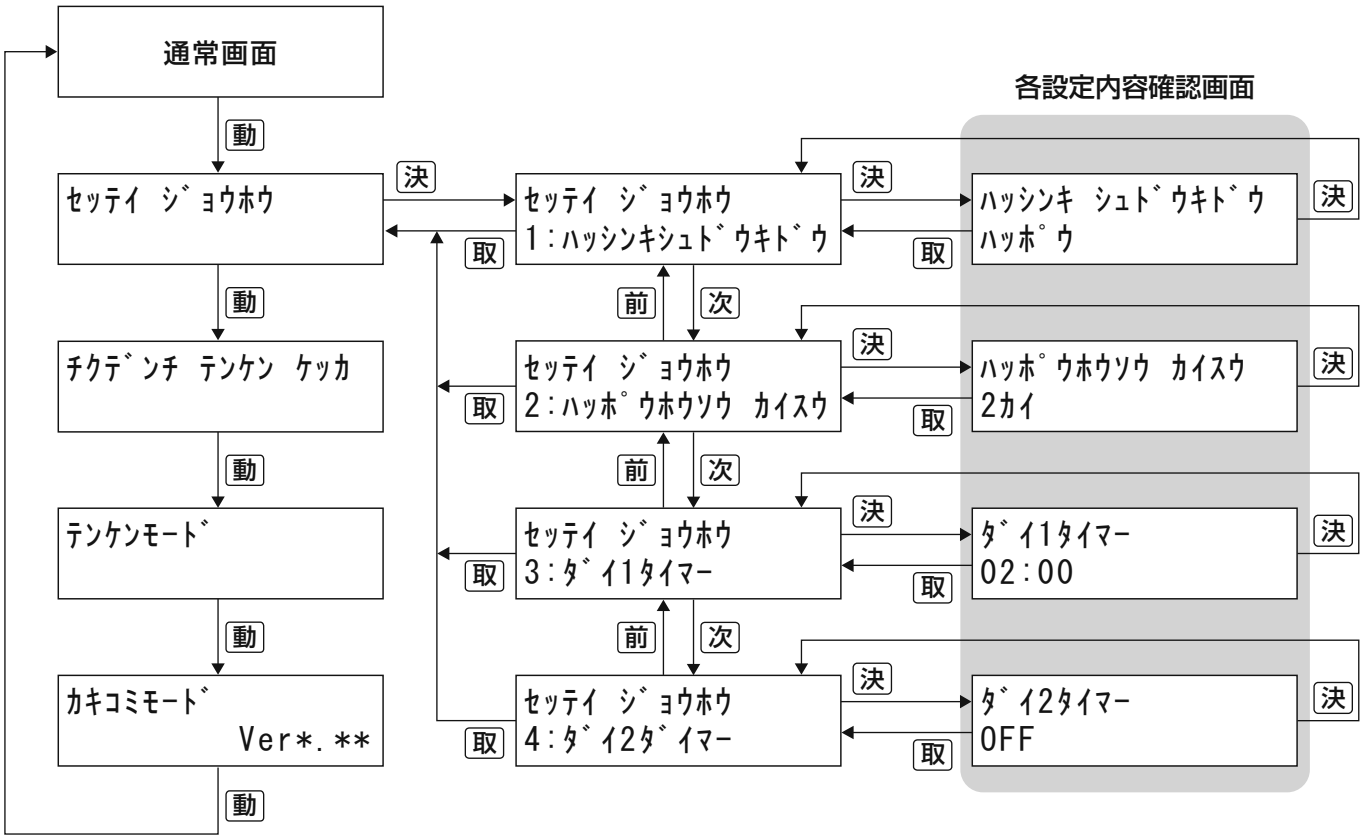
■ 放送復旧スイッチを押したあとの動作について

「発報放送」中の放送復旧後　：無選択、無音、第1タイマー継続
「非火災放送」中の放送復旧後：無選択、無音
「火災放送」中の放送復旧後　：無選択、無音、第2タイマー継続
注）第2タイマータイムアップによる「一斉火災放送」中は、放送復旧スイッチを押しても復旧しません。
　　無選択とは、放送階選択スイッチが解除され、階別作動表示灯がすべて消灯している状態をいいます。

設定内容の確認について

非常用放送設備本体の液晶画面で設定内容を確認できます。

- 非常放送の発信機手動起動設定、発報放送回数、第1タイマー、第2タイマーの設定内容の確認ができます。
- 動作選択スイッチを押して「セッテイ　ジョウホウ」画面を選択し、前画面／次画面／決定／取消の各スイッチを押して各設定内容を確認します。



動：動作選択スイッチ
決：決定スイッチ
取：取消スイッチ
前：前画面スイッチ
次：次画面スイッチ

放送の種類について

■ 緊急地震放送

緊急地震速報受信端末に連動して、本機に内蔵された地震放送用メッセージを、非常放送より優先して放送します。停電時も非常用蓄電池を使用して放送が行えます。

■ 非常放送

火災発生時に避難誘導を行うための放送です。自動火災報知設備の感知器や受信機などに連動して放送します。また本機や非常リモコンを操作して手動で放送することもできます。停電時も非常用蓄電池を使用して放送が行えます。

感知器発報放送.....感知器などが作動したときに火災発生を確認していることを知らせる放送です。
火災放送 .....火災が発生したことを知らせる放送です。
非火災放送 .....確認の結果、火災の発生がなかったことを知らせる放送です。

■ 緊急放送

本体の緊急放送起動入力、本体または非常リモコンの緊急放送スイッチによりマイクや緊急メッセージの放送をワンタッチで行うことができます。非常放送時は緊急放送は中断します。

■ 業務放送

リモコンによる呼び出し放送や決められた時刻に放送を行うチャイム放送、BGMや案内放送など日常的に使用する放送です。BGM放送を除く放送は、放送が重複したときに放送の優先順位の設定ができます。

本体放送・非常リモコン放送 .....本体または非常リモコンの一斉放送スイッチや放送階選択スイッチで放送先を選択して操作パネルの本体マイクや本体の音声入力に接続された音源機器からの放送ができます。本体マイクのマイクスイッチとの連動やコールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

マルチリモコン放送.....マルチリモコンマイクの一斉放送スイッチや放送エリアスイッチで放送先を選択して放送スイッチを押すとフレキシブルマイクや音声入力に接続された音源機器からの放送ができます。コールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

リモコンマイク放送.....リモコンマイクの一斉放送ボタンや個別放送ボタンで放送先を選択して放送ボタンを押すとフレキシブルマイクやライン入力に接続された音源機器からの放送ができます。コールサインスイッチを押してコールサインを鳴らすこともできます。

チャイム放送 .....外部音源機器からの制御信号と音声信号をチャイム入力に接続することにより、あらかじめ設定した放送先にチャイム放送を流すことができます。設定により、内蔵のチャイム音源を鳴動することもできます。

外部マイク放送.....外部マイクからの制御信号と音声信号を外部マイク入力に接続することにより、あらかじめ設定した放送先に外部マイクを使用しての放送ができます。

外部制御入力放送.....外部音源機器などからの制御信号と音声信号を外部制御入力と本体のマイク、ライン音声入力に接続することによりあらかじめ設定した放送先に放送ができます。内蔵音源やSD音源を放送することもできます。

ページング放送.....電話交換機などからの制御信号と音声信号をページング入力に接続することによりあらかじめ設定した放送先に電話機から呼び出し放送などが行えます。

BGM放送 .....BGM入力に接続された外部音源機器により、あらかじめ設定した放送先にBGM放送を流すことができます。BGM放送は他の放送が行われたときに自動的に音量を下げることができます。

■ 緊急・業務停電放送

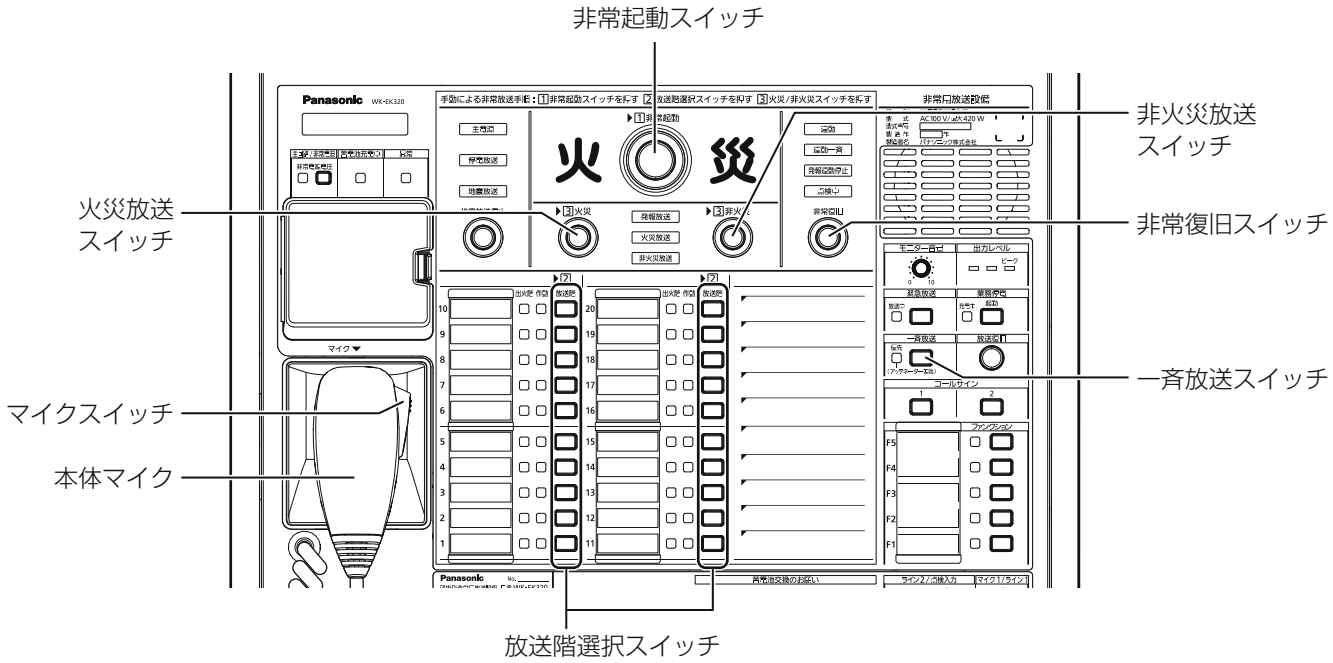
本機に業務用蓄電池を収納すると緊急放送・業務放送で停電時に放送を行うことができます。

非常放送のしかた

非常放送は、自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話が起動すると自動的に放送が開始されます。
非常放送を起動する方法、設定した内容により動作が異なります。

- 自動火災報知設備の感知器起動の場合 ⇨ 20、21ページ
- 非常電話・発信機起動の場合 ⇨ 22ページ
- 手動起動の場合 ⇨ 23、24ページ

■非常放送時に操作するスイッチ



非常放送時に使用するスイッチは以下のとおりです。

非常起動スイッチ　：非常放送を開始するときに押します。
火災放送スイッチ　：火災放送を手動で行うときに押します。
非火災放送スイッチ：非火災放送を行うときに押します。
一斉放送スイッチ　：全館に一斉放送を行うときに押します。
放送階選択スイッチ：放送したい階を追加、解除するときに押します。階別作動表示灯が点灯しているスイッチを押すと選択が解除されます。
非常復旧スイッチ　：非常放送を終了するときに押します。自動火災報知設備の感知器や発信機・非常電話が起動している状態では再度非常放送を開始するので、起動を復旧したあと、非常復旧スイッチを押してください。

非常放送のしかた（1）感知器起動

■ 感知器起動の場合

発報連動停止：**消灯**

自動火災報知設備の感知器起動
（業務放送は中断）

火災放送移行
タイマー
（第1タイマー）
動作開始

- 火災表示灯 点滅
- 出火階表示灯 点灯
- 階別作動表示灯 点灯

連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

「感知器発報放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

●放送階
連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※感知器発報放送中もマイク放送ができます

●いずれかの起動信号が入力	●いずれかの手動操作
• 発信機 • 非常電話 • 感知器第2報 • 自火報設備の火災確認信号	• 火災放送スイッチを押す • 非常起動スイッチを押す

タイマー
設定時間
経過後

一斉火災放送移行タイマー
（第2タイマー）

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

●放送階
連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

●放送階　：すべての階

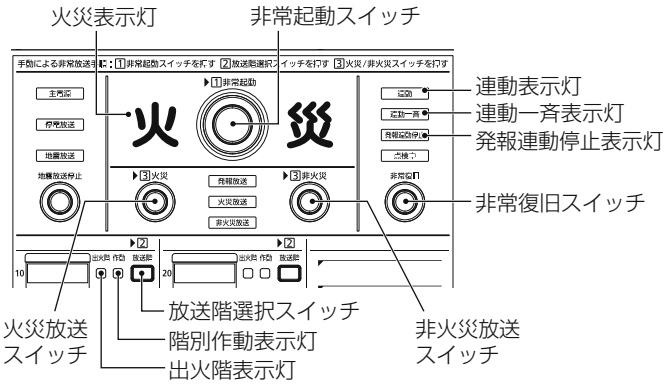
※一斉火災放送中もマイク放送ができます

※一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

●タイマー設定値

火災放送移行タイマー （第1タイマー）	分　秒
一斉火災放送移行タイマー （第2タイマー）	□ OFF ／ □ 0分 ／ □　分　秒

●操作パネル



●マイク放送のしかた

スイッチを押す



- マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- 放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- 火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

●放送階
連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※非火災放送中もマイク放送ができます

●非常放送の復旧（非常放送終了）

- 自動火災報知設備を復旧する
- 非常復旧スイッチを押す

※自動火災報知機を復旧しないで、非常復旧スイッチを押すと、再度、非常放送が始まります。

非常放送のしかた（2） 感知器起動

■ 感知器起動の場合

発報連動停止：**点灯**

自動火災報知設備の感知器起動
（業務放送は中断）

火災放送移行
タイマー
（第1タイマー）
動作開始

- 火災表示灯 点滅
- 出火階表示灯 点灯
- 階別作動表示灯 点灯

連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

「感知器発報放送」は放送されません。
火災音信号と音声指示ガイダンスがモニタースピーカーから出力されます
『ピー、ピー（火災音信号）火災感知器が作動しました。火災のときは火災放送スイッチを押してください。火災でないときは自動火災報知設備を復旧して非常復旧スイッチを押してください。』
（音声指示ガイダンス）

●いずれかの起動信号が入力	●いずれかの手動操作
• 発信機 • 非常電話 • 感知器第2報 • 自火報設備の火災確認信号	• 火災放送スイッチを押す • 非常起動スイッチを押す

タイマー
設定時間
経過後

一斉火災放送移行タイマー
（第2タイマー）

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階
※火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

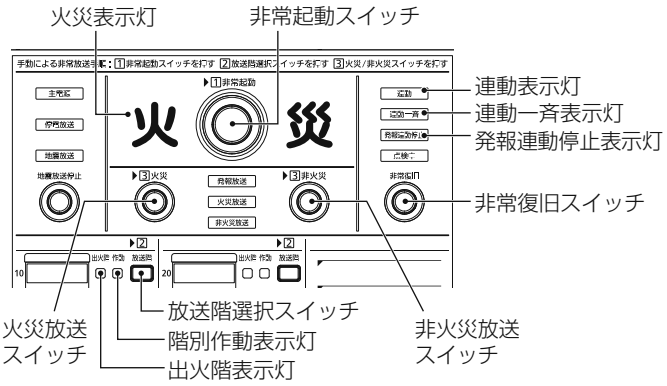
「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階 ：すべての階
※一斉火災放送中もマイク放送ができます

※一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

●タイマー設定値

火災放送移行タイマー （第1タイマー）	分　秒
一斉火災放送移行タイマー （第2タイマー）	□ OFF ／ □ 0分 ／ □　分　秒

●操作パネル



●マイク放送のしかた

スイッチを押す



- マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- 放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- 火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階
※非火災放送中もマイク放送ができます

●非常放送の復旧（非常放送終了）

- 自動火災報知設備を復旧する
- 非常復旧スイッチを押す

※自動火災報知機を復旧しないで、非常復旧スイッチを押すと、再度、非常放送が始まります。

操作

非常放送のしかた（3） 非常電話・発信機起動

操作

■非常電話・発信機起動の場合

非常電話または発信機からの起動
（業務放送は中断）

- 火災表示灯 点滅
- 出火階表示灯 点灯
- 階別作動表示灯 点灯

連動 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

□ 発報火災設定：**発報**

「感知器発報放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※感知器発報放送中もマイク放送ができます

□ 発報火災設定：**火災**

●いずれかの起動信号が入力	●いずれかの手動操作
• 感知器 • 発報放送終了	• 火災放送スイッチを押す • 非常起動スイッチを押す

一斉火災放送移行タイマー
（第2タイマー）

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』

●放送階 ：すべての階

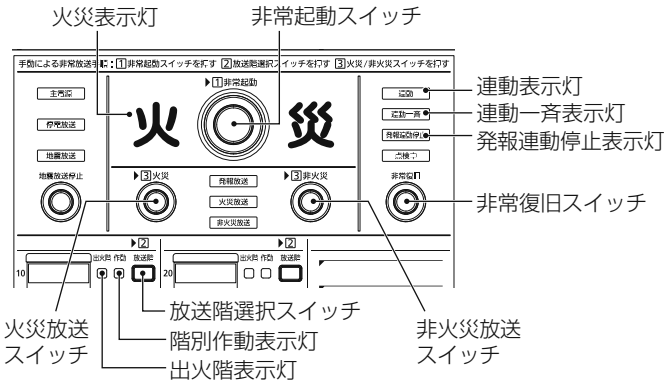
※一斉火災放送中もマイク放送ができます

※一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

●タイマー設定値

火災放送移行タイマー （第1タイマー）	—
一斉火災放送移行タイマー （第2タイマー）	□ OFF ／ □ 0分 ／ □ 分 秒

●操作パネル



●マイク放送のしかた

スイッチを押す



- マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- 放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- 火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

■火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

●放送階 **連動** 表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉 表示が点灯：すべての階

※非火災放送中もマイク放送ができます

●非常放送の復旧（非常放送終了）

- 非常電話、発信機を復旧する
- 非常復旧スイッチを押す

※非常電話、発信機を復旧しないで、非常復旧スイッチを押すと、再度、非常放送が始まります。

非常放送のしかた（4） 手動起動（発報）

■ 手動起動の場合

発報火災切換：**発報**

火災情報を入手
①非常起動スイッチを押す（非常起動スイッチを押すと業務放送は中断）
②放送が必要な放送階選択スイッチ、または全館に放送するときは一斉スイッチを押す

火災放送移行タイマー（第1タイマー）動作開始

- 火災表示灯 点滅
- 階別作動表示灯 点灯：選択した放送階

「感知器発報放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』
●放送階　**連動**　表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉　表示が点灯：すべての階
※感知器発報放送中もマイク放送ができます

●いずれかの起動信号が入力	●いずれかの手動操作
• 感知器 • 非常電話 • 発信機	• 火災放送スイッチを押す • 非常起動スイッチを押す

タイマー設定時間経過後
一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）
タイマー設定値：「0分」
タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階　**連動**　表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉　表示が点灯：すべての階
※火災放送中もマイク放送ができます

タイマー設定時間経過後

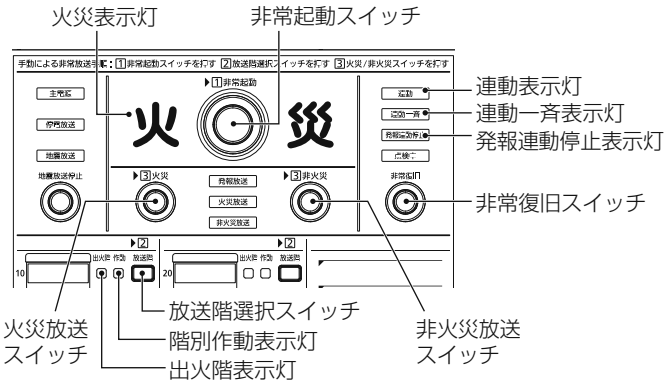
「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階　：すべての階
※一斉火災放送中もマイク放送ができます

※一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

●タイマー設定値

火災放送移行タイマー（第1タイマー）	分　秒
一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）	□ OFF ／ □ 0分 ／ □ 分　秒

●操作パネル



●マイク放送のしかた

スイッチを押す



- マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
- 放送階選択スイッチで他の階も選択できます
- 火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
●放送階　**連動**　表示が点灯：出火階および連動階
連動一斉　表示が点灯：すべての階
※非火災放送中もマイク放送ができます

●非常放送の復旧（非常放送終了）
- 非常復旧スイッチを押す

非常放送のしかた（5） 手動起動（火災）

■ 手動起動の場合

発報火災切換：**火災**

火災情報を入手
①非常起動スイッチを押す（非常起動スイッチを押すと業務放送は中断）
②放送が必要な放送階選択スイッチ、または全館に放送するときは一斉スイッチを押す

↓

・火災表示灯 点灯
・階別作動表示灯 点灯：選択した放送階

↓

一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）

タイマー設定値：「0分」

タイマー設定値：「OFF」、または「時間設定」

「火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階　**連動**　表示が点灯：出火階および連動階
　　連動一斉　表示が点灯：すべての階
※火災放送中もマイク放送ができます

↓ タイマー設定時間経過後

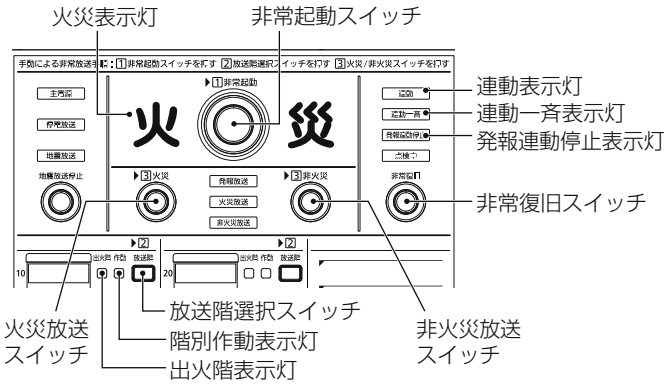
「一斉火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）火事です！火事です！
火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュー ビュー ビュー（第2シグナル音）』
●放送階　：すべての階
※一斉火災放送中もマイク放送ができます

※一斉火災放送移行タイマーが「OFF」の場合は、一斉火災放送には移行しません。

●タイマー設定値

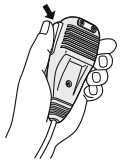
火災放送移行タイマー（第1タイマー）	—
一斉火災放送移行タイマー（第2タイマー）	□ OFF ／ □ 0分 ／ □　　分　　秒

●操作パネル



●マイク放送のしかた

スイッチを押す



・マイク放送はいつでも放送できます（最優先）
・放送階選択スイッチで他の階も選択できます
・火災放送中にマイク放送を行うと「ビュー、ビュー、ビュー（第2シグナル音）」の連続になります

■ 火災でなかった場合

非火災放送スイッチを押す

※感知器発報放送や火災放送中に非火災放送スイッチを押すと非火災報放送に切り替わります。

↓

「非火災放送」が放送されます
『ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
●放送階　**連動**　表示が点灯：出火階および連動階
　　連動一斉　表示が点灯：すべての階
※非火災放送中もマイク放送ができます

→

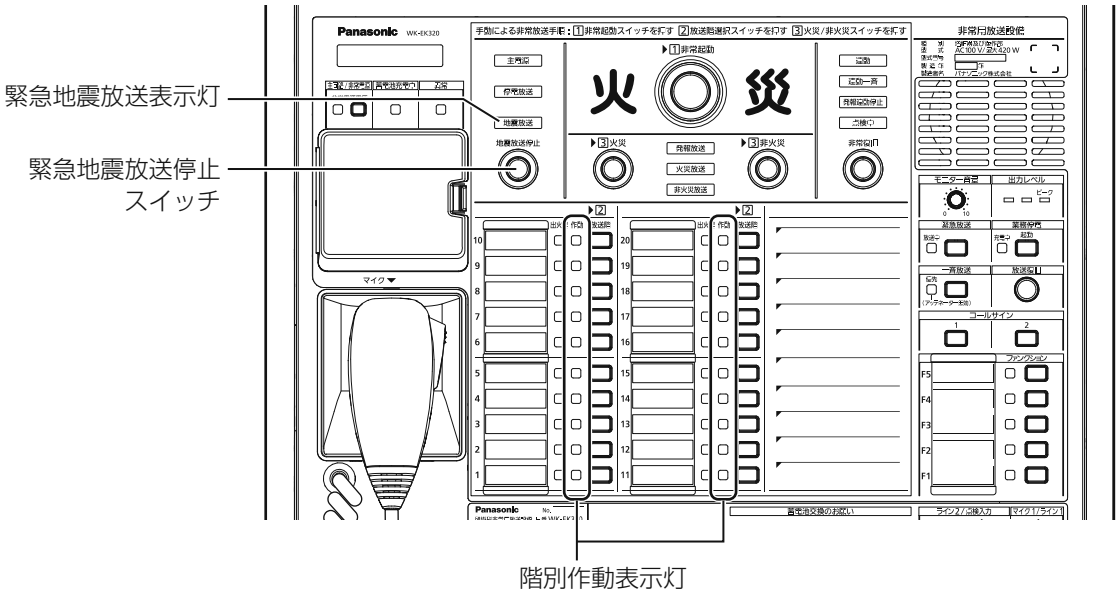
●非常放送の復旧（非常放送終了）
・非常復旧スイッチを押す

緊急地震放送について

緊急地震放送とは

緊急地震速報受信端末からの起動信号により、自動で地震放送ができます。
緊急地震放送は、放送の優先順位が最上位で、この放送を行っている間は、非常放送、緊急放送、業務放送、およびマイク放送は行えません。また、停電時も非常放送用の非常電源により放送が可能です。

緊急地震放送の動作

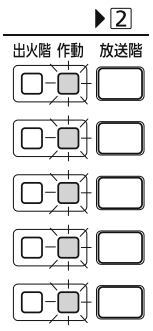


緊急地震速報受信端末より緊急地震速報を受信

緊急地震放送表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送される

サイン音2回。「地震です。落ち着いて身を守ってください。」





- あらかじめ設定した階すべてに放送されます。
  （手動操作により、放送階に追加・削除を行うことはできません）
- マイク放送はできません。

液晶画面

```
ｼﾞｼﾝ　ﾎｳｿｳﾁｭｳ
ﾃｲｼ→ｼﾞｼﾝﾃｲｼ　ｵｾ
```

↕**交互に表示**

```
ｼﾞｼﾝ　ﾎｳｿｳﾁｭｳ
ﾏｲｸﾎｳｿｳ　ﾃﾞｷﾏｾﾝ
```

※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。

サイン音はREIC、NHKから選択できます。設定は本体の書き込みで行います。

緊急地震放送を停止させたいときは

緊急地震放送停止スイッチを押す

緊急地震放送が停止します。

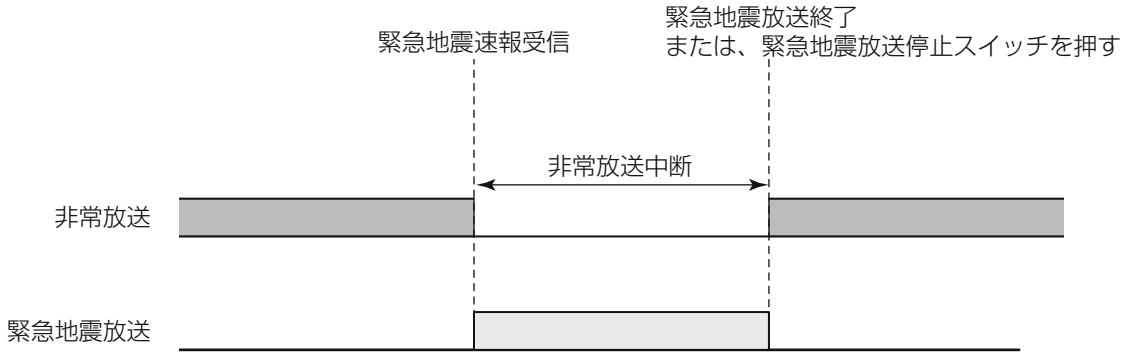


※緊急地震放送前に放送を行っていた場合は、緊急地震放送終了後、元の放送を再開します。

緊急地震放送を行っているときの非常放送について

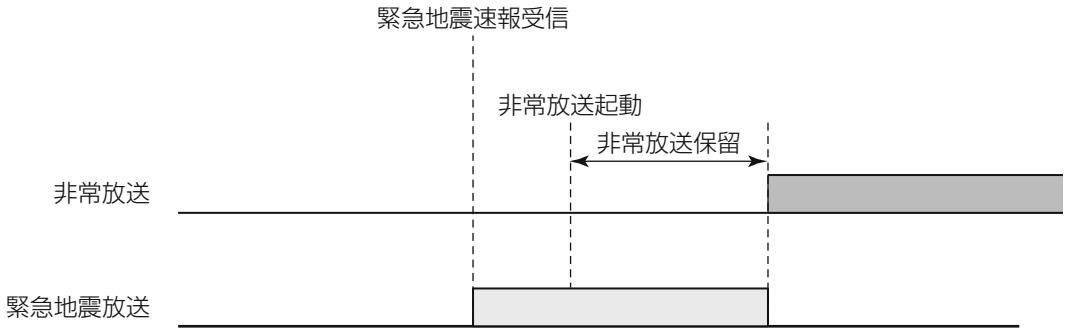
緊急地震放送は、非常放送より優先して放送されます。緊急地震放送中の非常放送の動作は以下のとおりです。

●非常放送中に緊急地震速報を受信したとき



・非常放送中に緊急地震速報を受信した場合、非常放送は中断し、緊急地震放送に切り換わります。

●緊急地震放送中に非常放送起動入力を受信したとき

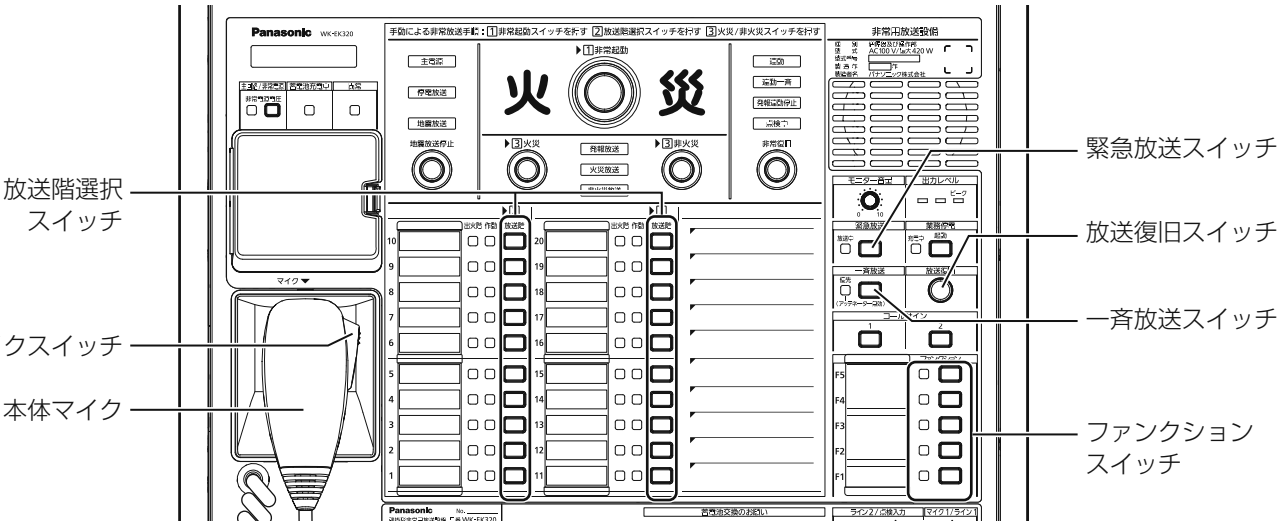


・緊急地震放送中に非常放送が起動した場合、緊急地震放送が優先され、非常放送は保留状態になります。
・緊急地震放送中は、非常放送に関するスイッチ（火災放送スイッチ、非火災放送スイッチなど）の操作は無効となりますが、非常放送の階別信号（EL）や火災確認信号（EF）を受信した場合、非常起動スイッチを押した場合は保留状態となり、緊急地震放送終了後の非常放送状態に反映されます。
・緊急地震放送中に、非常放送を優先させたいときは、緊急地震放送停止スイッチを押して、緊急地震放送を終了させる必要があります。

緊急放送のしかた

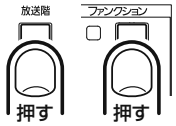
緊急事態のとき、業務放送に優先して緊急放送を行うことができます。
※緊急放送中に非常放送、緊急地震放送が発生した場合は放送を中断します。
緊急放送スイッチあるいは緊急放送制御端子により緊急放送を行うことができます。それぞれの緊急放送で放送可能な音声は以下のとおりです。
緊急放送スイッチ：本体マイク、チューナー、音源メッセージ（ファンクションスイッチ）
緊急放送制御端子：緊急放送音声入力 または 音源メッセージ

- ファンクションスイッチによる音源再生については施工説明書をお読みください。
- 緊急放送制御端子により放送する音声は施工説明書をお読みください。



緊急放送スイッチを押す
あらかじめ緊急放送スイッチに放送先が登録されている場合は、登録された放送先の階別作動表示灯が点灯します。

放送したい場所の放送階選択スイッチまたは、ファンクションスイッチ（放送先割り当て）を押す

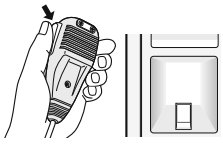


一斉放送するときは、一斉放送スイッチを押す



マイクで放送する

スイッチを押す



音源メッセージを再生する
あらかじめ音源メッセージ再生機能に設定されたファンクションスイッチを押します。



あらかじめ設定された放送先に緊急音声入力あるいはメッセージが放送されます。

外部機器により緊急放送制御端子をONする
あらかじめ緊急放送制御端子に放送先が登録されている場合は、登録された放送先の階別作動表示灯が点灯します。

緊急放送音声入力で放送する場合
ミュージックレコーダーなどを「再生」にします。操作方法については、お手持ちのミュージックレコーダーなどの取扱説明書をお読みください。

メッセージで放送する場合
外部センサーなどの機器から制御信号を受信する。

あらかじめ設定された放送先に緊急音声入力あるいはメッセージが放送されます。

放送復旧スイッチを押す

外部機器により緊急放送制御端子をOFFにする

緊急放送のしかた

●緊急放送時の液晶画面表示（画面は点滅します）

緊急放送スイッチによる放送

```
ｷﾝｷｭｳ ﾎｳｿｳﾁｭｳ
ｷﾝｷｭｳｽｲｯﾁ
```

緊急放送制御端子による放送

```
ｷﾝｷｭｳ ﾎｳｿｳﾁｭｳ
ｷﾝｷｭｳﾀﾝｼ
```

緊急放送スイッチと緊急放送制御端子による放送

```
ｷﾝｷｭｳ ﾎｳｿｳﾁｭｳ
ｷﾝｷｭｳｽｲｯﾁ+ﾀﾝｼ
```



・非常リモコンの緊急放送スイッチで緊急放送を起動した場合も本体操作で放送を行うことができます。

業務放送のしかた

業務放送について

業務連絡、呼び出し放送およびBGM放送など日常的に使用する放送です。

※業務放送中に非常放送、緊急地震放送、緊急放送が発生した場合は業務放送を中断します。

業務放送で放送可能な起動入力と音声は以下のとおりです。

起動入力	放送中の液晶表示内容	放送可能な音声
本体	ﾎﾝﾀｲ	本体マイク、マイク1／ライン1、マイク2、ライン2、ライン3、チューナー、音源メッセージ
非常リモコン1～4	ﾋｼﾞｮｳRM1（または2～4）	本体マイク、ライン入力、音源メッセージ
マルチリモコンマイク1～4	ﾏﾙﾁRM1（または2～4）	マイク
リモコンマイク	ﾘﾓｺﾝﾏｲｸ	リモコンマイク
チャイム放送	ﾁｬｲﾑ	チャイム入力、内蔵チャイム
外部マイク放送	ｶﾞｲﾌﾞﾏｲｸ	外部マイク入力
外部制御入力1～5※	ｶﾞｲﾌﾞｾｲｷﾞｮ1（または2～5）	マイク1／ライン1、ライン2、ライン3、音源メッセージ
ページング放送	ﾍﾟｰｼﾞﾝｸﾞ	ページング入力
BGM放送	BGM	BGM入力

※外部制御入力1～5起動時に放送する音声の設定は本体の書き込みで行います。外部制御入力の設定は施工説明書をお読みください。

優先順位について

■ 各放送と優先順位の関係

各放送状態は、最優先で緊急地震放送、次に非常放送、緊急放送、業務放送の優先順位となります。

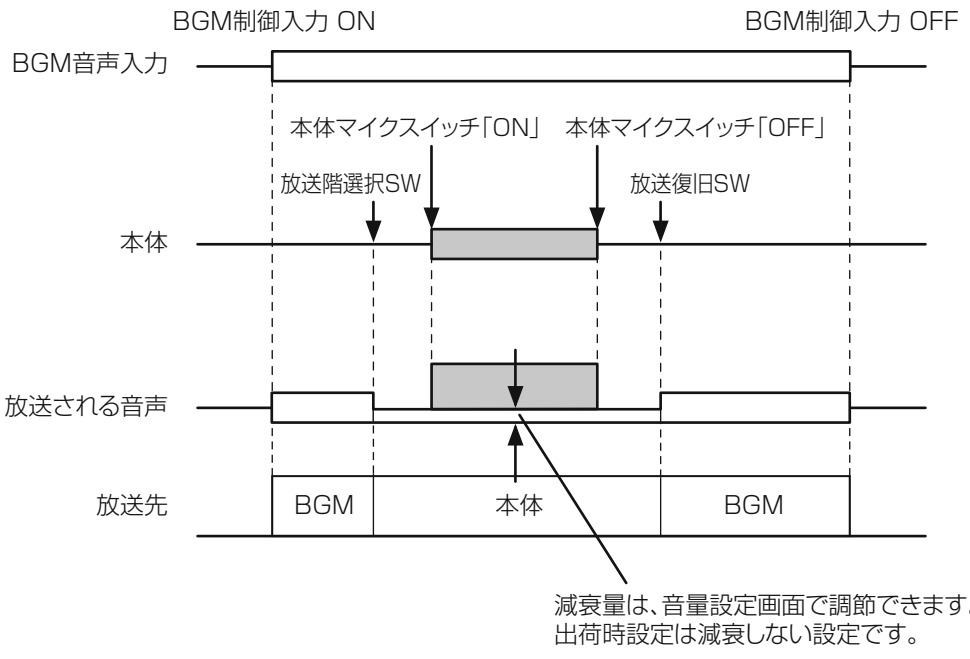
優先順位	放送状態
1	緊急地震放送
2	非常放送
3	緊急放送
4	業務放送

■ 業務放送の設定可能優先順位

業務放送は、BGM放送を除いて各起動入力を優先順位1～3位まで設定できます。
放送が競合した場合は優先順位が高い放送が優先されます。BGM放送の優先順位は最下位で放送競合時は他の放送を優先します。同順位の場合、後押し優先方式を採用しており、常にあとから押したスイッチ（起動入力）が優先されます。
※出荷時とデータ初期化時は、すべての起動入力が、第2位に設定されています。

■ BGM放送

- ミュージックレコーダーなどのBGM再生機の音声をあらかじめ設定した放送先に放送します。
- BGM制御入力の他にBGM音声入力のレベルを検知して放送制御を行うため、CDプレーヤーなど制御信号を出力しないBGM再生機でもBGM放送を行うことが可能です。
- BGM放送は放送の優先順位が一番低く、他の放送が起動されたときにその放送先にBGM音声をミキシングして放送することができます。
- BGMの設定は施工説明書をお読みください。
  例）BGM放送中に本体で放送した場合



■ ファンクションスイッチへの機能割り当てについて

ファンクションスイッチF1 ～ F5には以下の機能のうち、一つを割り当てることができます。

1. 放送先割り当て

- 階とは無関係に、同一放送したい場所をまとめて放送することができます。
- ファンクションスイッチを押すとあらかじめ設定したスピーカー回線が選択され、放送を開始します。放送を中止する場合は、再度ファンクションスイッチを押すとファンクションスイッチ表示灯が消灯し、スピーカー回線選択が解除されます。
- 放送階選択スイッチやファンクションスイッチ、一斉スイッチを追加で押すことにより、放送先を追加・削除することができます。
- アッテネーターでスピーカーの音量が絞られている場合でも緊急時の放送に備えて放送できるようにしたいときは、放送先を優先設定（アッテネーター無効、最大音量で放送）することができます。
  優先設定は施工説明書をお読みください。



- ファンクションスイッチで放送先を選択すると、選択されたスピーカー回線が含まれる階の階別作動表示灯も点灯します。

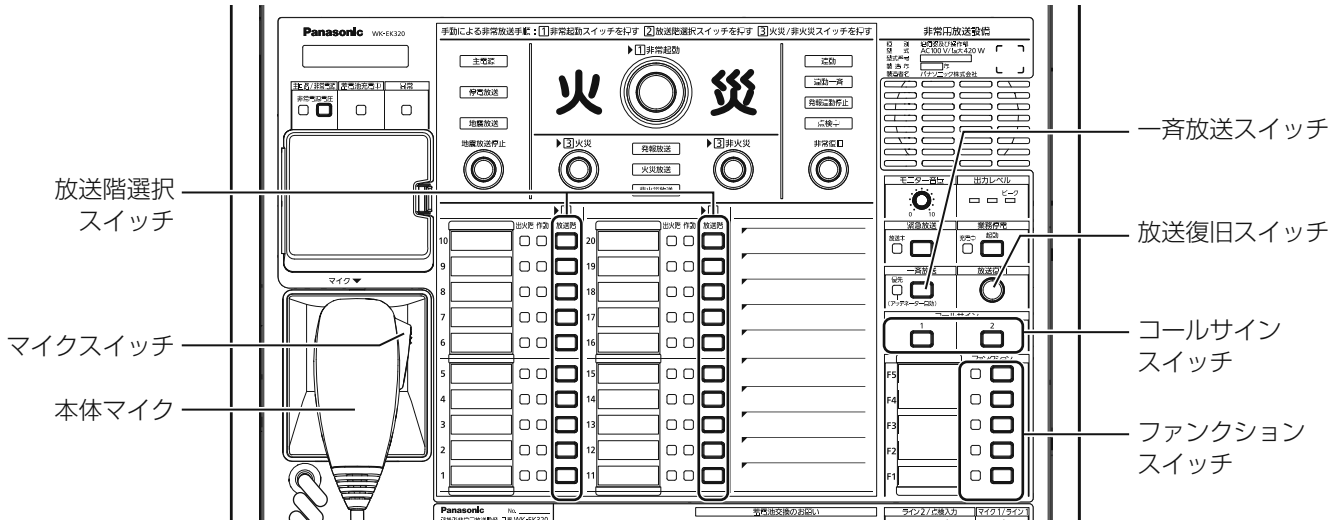
2. 外部制御出力

ファンクションスイッチを押して外部制御出力1～5をONすることにより、外部機器を制御します。出力中はファンクションスイッチ表示灯が点灯します。OFFするには再度ファンクションスイッチを押します。

3. 音源再生

- ファンクションスイッチを押してあらかじめ設定した放送先に内蔵音源メッセージやSDカード音源（SDカードに収録された音源ファイル）を再生することができます。放送先を設定しない場合は放送階選択スイッチや一斉スイッチで選択した放送先に音源メッセージを再生します。
- 音源メッセージ再生中に放送階選択スイッチや一斉スイッチを押すと放送先を追加･削除することができます。ただし、ファンクションスイッチに設定された放送先を削除することはできません。
- 再生を停止する場合は再度ファンクションスイッチを押します。
- 音源メッセージ再生は繰り返し再生の設定ができます。繰り返し設定：OFFの場合は1回のみ再生し、繰り返し設定：ONの場合は停止操作を行うまで繰り返し再生します。

■ 本体からの放送



放送したい場所の放送階選択スイッチを押す



一斉放送するときは、一斉放送スイッチを押す



ファンクションスイッチを押す



放送前にコールサインスイッチを押す



本体マイクあるいはマイク 1（2）のマイクロホンで放送する

スイッチを押す



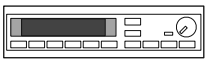
・ミュージックレコーダーなどから放送するとき



ミュージックレコーダーを「再生」にする

操作方法についてはお手持ちのミュージックレコーダーの取扱説明書をお読みください。

・ラジオを放送するとき

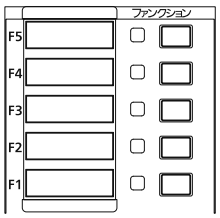


ラジオチューナーユニット（別売品）

①電源スイッチを押す。
②希望の局を選局する。
③音量つまみを7～8に合わせる。

・音源メッセージを再生するとき

あらかじめ音源メッセージ再生機能に設定されたファンクションスイッチ（F1 ～ F5）を押します。



選択した放送先に放送されます。

放送後にコールサインスイッチを押す



放送復旧スイッチを押す

すべての放送先の階別作動表示灯が消えます。



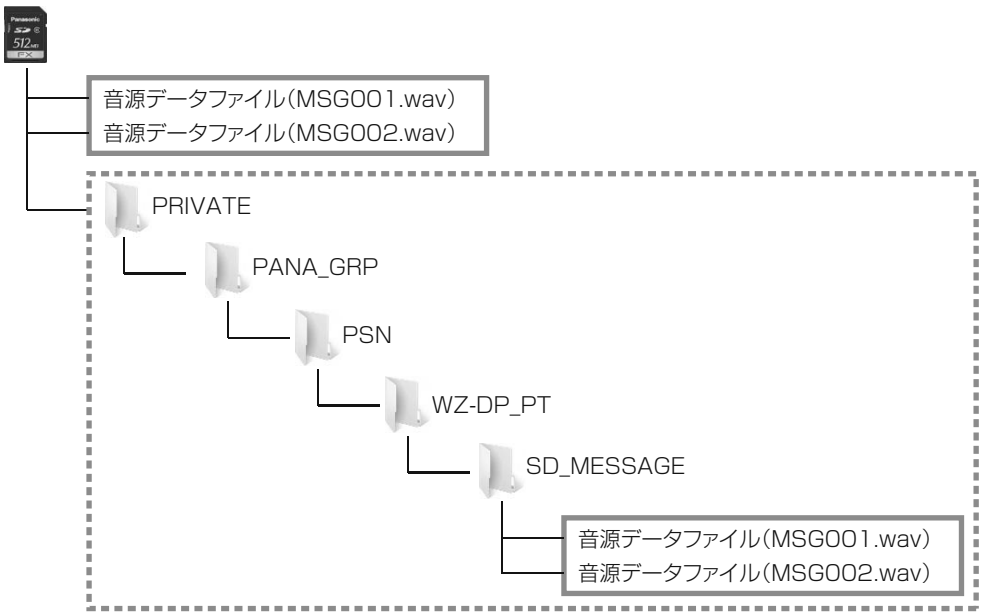
■ 音源メッセージ（SDカード音源）について

SDカード内の音源ファイルをSDカード音源1、2としてファンクションスイッチなどから再生します。
再生できる音源ファイルフォーマットは以下のとおりです。

項目		内容
ファイル名※1	SDカード音源1	MSG001.wav
	SDカード音源2	MSG002.wav
データ形式		リニアPCM
サンプリング周波数		44.1 kHz
量子化ビット数		16 bit
ステレオ／モノラル		ステレオ／モノラル※2

※1 音源ファイルのファイル名は固定です。
※2 ステレオファイルの場合は、再生時に、Lch、Rchをミキシングして再生することができます。

SDカードのルートに音源ファイルを置けば、SDカード音源1、2として扱うことができます。
また、ルートに音源ファイルが存在しない場合はデジタルICレコーダー（WZ-DP320）やプログラムICレコーダー（WZ-PT340）で録音したSDカードをそのまま使用することもできます。



WZ-DP320やWZ-PT340で録音したときのフォルダ構成

memo

・両方の場所に音源ファイルが存在する場合はSDカードのルートにある音源ファイルが優先されます。

■ SDカードについて

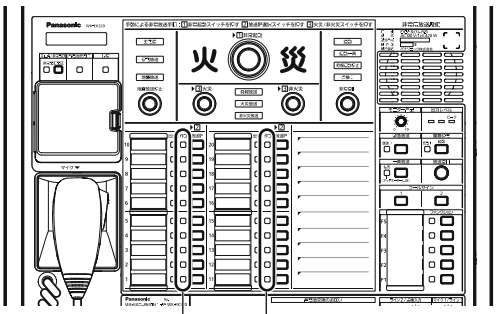
・未フォーマットのSDカードを使用する場合は、SDフォーマッター※をご使用ください。フォーマットすると、記録されていた内容は消去されます。未フォーマットのSDカードや指定方法以外でフォーマットしたSDカードを使用すると、正常に動作しないことや、性能低下することがあります。
※SDフォーマッターとは、SD／SDHC／SDXC規格を使用したメモリーカードの性能が最適になるようにフォーマットするソフトウェアです。フォーマッターの入手は、SDアソシエーションのホームページまたは、販売店にお問い合わせください。
・対応SDカード
SDHCカード：4 GB、8 GB、16 GB、32 GB
SDカード：2 GB（miniSDカード、microSDカードは除く）
・廃棄の際は、SDカードを物理的に分解するか、SDカード内のデータを完全に消去して、それぞれの地域ルールにしたがって、分別廃棄をお願いします。

相互通話のしかた

放送が行われていないときは、本機と非常リモコン間で、本体マイクを使っての相互通話（インターホン）をすることができます。

■相互通話のしかた

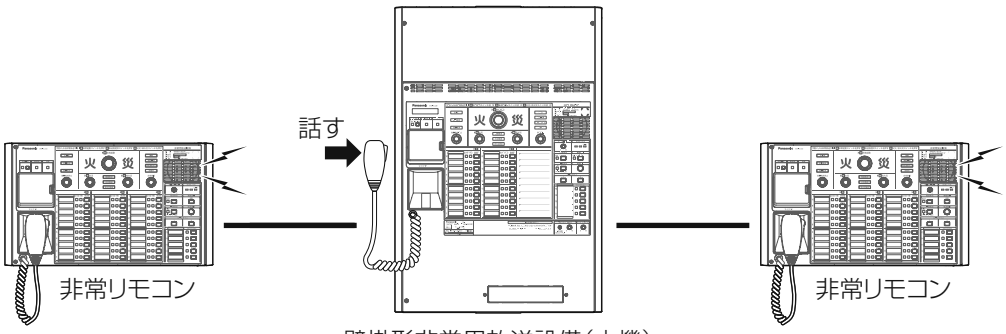
1. すべての階別作動表示灯が消灯し、放送が行われていないことを確認する



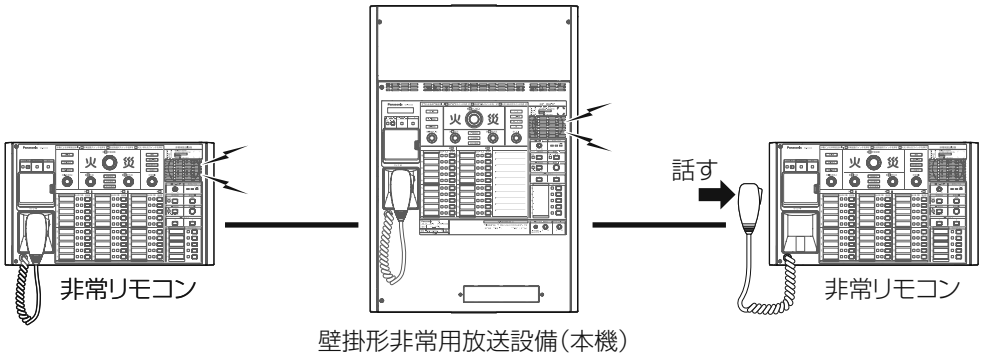
※放送階選択スイッチが押され、作動表示灯が点灯していると、マイク音声は選択された階へ放送されます。

2. 本体マイクを取り、マイクスイッチを押しながら話す

・本機の本体マイクからの音声は、つながっているすべての非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



・非常リモコンの本体マイクからの音声は、本機と他の非常リモコンのモニタースピーカーから出力されます。



・放送が行われているときは、相互通話はできません。
・相互通話中に本機または非常リモコンから放送を行ったときは、相互通話は中断します。

日常点検

電源の点検

■ 主電源の点検

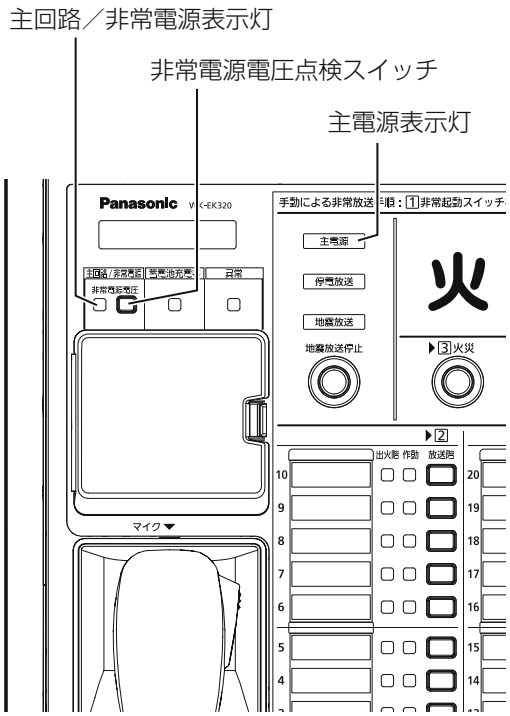
操作パネルの主電源表示灯が点灯していることを確認する。
本機に常用電源（AC100 V）が供給されている場合に点灯します。
停電時は消灯します。

■ 主回路の点検

操作パネルの主回路表示灯が点灯していることを確認する。
主回路の電源（DC24 V）が動作下限電圧以上の場合に点灯し、
動作下限電圧未満の場合には消灯します。
停電動作時にも点灯します。

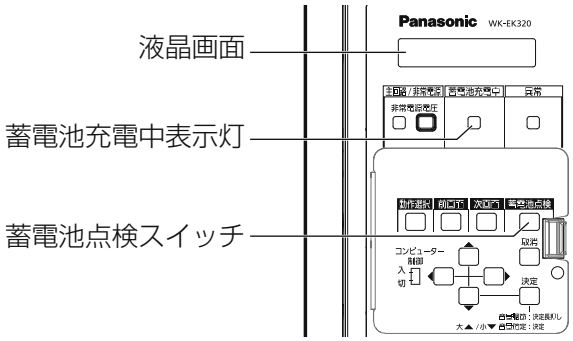
■ 非常電源電圧の点検

非常電源電圧点検スイッチを押して、非常電源電圧を確認する。
通常は、主回路電圧を表示しています。
非常電源電圧が正常のときは点灯します。



■ 蓄電池の手動点検

1. 蓄電池充電中表示灯が点灯していることを確認する



2. スイッチカバー内の蓄電池点検スイッチを押す

蓄電池の点検が実行されます。業務用蓄電池が接続されている場合は非常用蓄電池の点検に続けて業務用蓄電池の点検が実行されます。
点検中の蓄電池、および、点検結果が液晶画面に表示されます。
（業務放送中や書き込みモードなどが液晶画面に表示されている場合は表示されません）
最新の蓄電池点検結果は、蓄電池点検結果（38ページ）で確認することができます。
蓄電池が動作電圧以下のときには、液晶画面が以下の表示になり、ブザー音が鳴ります。

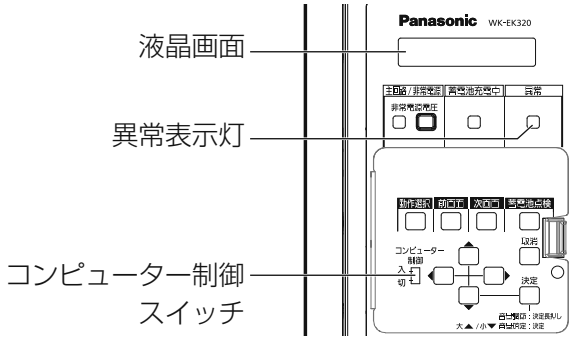
```
<ｲｼﾞｮｳ>ﾁｸﾃﾞﾝﾁ
ﾋｼﾞｮｳ ﾖｳ
```

任意の放送階選択スイッチを押してブザー音を止め、蓄電池を交換してください。
ブザー音は接続している非常リモコンからも鳴りますので、同様に非常リモコンの任意の放送階選択スイッチを押して止めます。
液晶画面の「<イジョウ>チクデンチ」の表示は、次の点検で正常電圧の下限以上の判定が出るまで表示されます。表示内容を消したいときは、スイッチカバー内の取消スイッチを押してください。

- 緊急地震放送、非常放送、緊急放送中、および停電起動中は、蓄電池の手動点検は実施できません。
- 蓄電池の手動点検中に、緊急地震放送、非常放送、緊急放送が発生した場合は、点検を中止します。
- 蓄電池の電圧の点検は、蓄電池を消耗させます。連続して蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、停電動作ができなくなる恐れがあります。
- 蓄電池点検スイッチを押すと、蓄電池充電中表示灯は消灯します。
- 非常用蓄電池の点検時に電力増幅ユニットのファンの確認も行うため、ファンが回転（WU-PK312、WU-PK327、WU-PK342の場合）します。

異常時の表示について

- コンピューター異常またはその他の異常が発生したときは、操作パネル左上の異常表示灯が点灯します。
- その他の異常内容は、液晶画面に表示されます。詳細の表示内容は「自動点検」（37ページ）で確認することができます。
- 本機または非常リモコンのコンピューター制御スイッチを「切」にした場合も異常表示灯が点灯します。



保守点検

自動点検

本機には、コンピューターによる自動点検機能があり、蓄電池異常、通信異常、スピーカー回線短絡、本体マイク異常、電力増幅ユニット異常、主回路／非常電源異常、主電源異常、出力端子過電流異常の自動点検を行うとともに、その内容が動作履歴に記録されます。

点検項目	点検内容	点検方法	異常発生時の表示とブザー音		復旧方法
			表示灯とブザー音	液晶表示（異常発生時は、バックライトが点滅します）	
蓄電池異常	蓄電池が正常電圧であるかどうかを判定	24時間ごとに監視	異常表示灯:点灯 ブザー音：鳴動	非常用蓄電池の場合 〈ｲｼﾞｮｳ>ﾁｸﾃﾞﾝﾁ ﾋｼﾞｮｳ ﾖｳ 業務用蓄電池の場合 〈ｲｼﾞｮｳ>ﾁｸﾃﾞﾝﾁ ｷﾞｮｳﾑ ﾖｳ	異常表示灯が赤点灯し、蓄電池点検結果が異常の場合は、蓄電池を交換してください。
通信異常	本機と非常リモコン間の通信を点検	常時監視	異常表示灯:点灯 ブザー音：鳴動	〈ｴﾗｰ>ﾂｳｼﾝ ﾋｼﾞｮｳRM1 下側に対象の「ﾋｼﾞｮｳRM」とアドレスNoが表示されます。	非常リモコンから放送の操作を再度して異常表示が復旧しないか確認してください。 異常が消えない場合は、非常リモコンの接続や配線が確実に接続されているかを確認してください。
スピーカー回線短絡	スピーカー回線の短絡を検出	放送時にスピーカー回線が短絡状態の場合	異常表示灯:点灯 ブザー音：なし	〈ｲｼﾞｮｳ>SPｶｲｾﾝ 04 09 13 下側に異常発生のスピーカー回線番号が表示されます。	異常発生のスピーカーや配線の短絡や端子台配線部分の接続を確認してください。
本体マイク異常	本体マイクの断線を監視	常時監視	異常表示灯:点灯 ブザー音：なし	〈ｲｼﾞｮｳ>ﾎﾝﾀｲﾏｲｸ	本体マイクの内部接続を確認してください。
電力増幅ユニット異常	電力増幅ユニットの異常監視	電力増幅ユニットのヒューズ断、温度異常を常時監視。ファンの異常は、24時間ごとに自動的にファンを動作させて点検	異常表示灯:点灯 ブザー音：なし	〈ｲｼﾞｮｳ>ﾊﾟﾜｰｱﾝﾌﾟ	故障履歴を設定支援で読み込み、電力増幅ユニットの異常詳細を確認してください。
主回路／非常電源異常	主回路、非常電源の電圧を監視	常時監視	主回路／非常電源表示灯：消灯 ブザー音：なし		常用電源AC100V や蓄電池の電圧を確認してください。
主電源異常	主電源の電圧を監視	常時監視	主電源表示灯 ：消灯 ブザー音：なし		常用電源AC100Vや蓄電池の電圧を確認してください。
出力端子過電流異常	電流を監視	常時監視	異常表示灯:点灯 ブザー音 ：鳴動（非常制御1／2のみ）	〈ｲｼﾞｮｳ>ﾃﾞﾝｹﾞﾝ ﾋｼﾞｮｳRM 下側に下記の検知対象が表示されます。 非常リモコン／マルチリモコン／リモコンマイク／RU+／非常制御1／非常制御2	出力端子に接続されている機器、または配線を確認してください。
コンピューター異常	システム動作を監視	常時監視	異常表示灯:点灯	液晶画面には何も表示されません。	

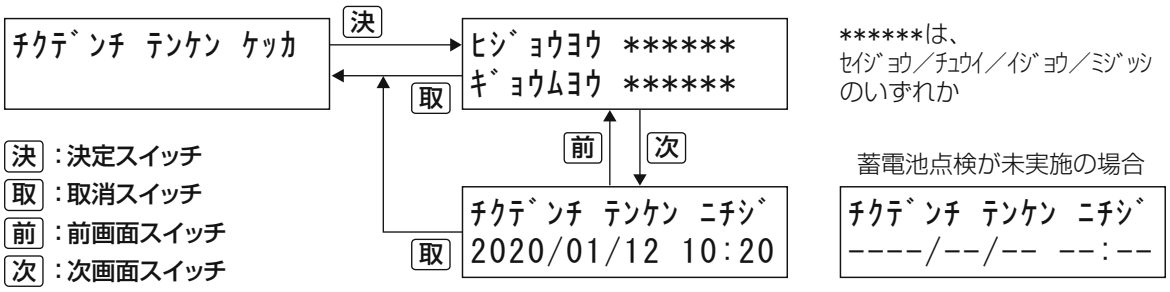
重要
- 異常表示灯が点灯している状態で液晶表示がない場合は、コンピューター制御スイッチが「切」になっているか、コンピューター異常が発生している状態です。コンピューター異常が発生している場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

memo
- スピーカー回線短絡の異常表示は、通常状態または業務放送状態で非常復旧スイッチを押すと復旧します。
- ブザー音は、操作パネルの任意の放送階選択スイッチを押すと鳴動が止まります。
- スイッチカバー内の取消スイッチを押すと液晶表示の表示内容が消えます。
- 複数の異常が発生した場合、液晶画面の表示は、新しく発生した異常の内容に更新されていきます。スイッチカバー内の取消スイッチを押すと、1つ前に発生した異常が表示されます。異常の内容がそれ以上表示されなくなる前に取消スイッチ（エラー解除）を押し、発生した異常をすべて確認してください。
- 一度異常の内容を表示させたあとに再度表示させたいときは、取消スイッチ（エラー解除）を長押しすることで、再度発生した異常内容を確認することができます。

蓄電池点検結果の確認

1. 操作パネルのスイッチカバーを開け、動作選択スイッチを通常画面から2回押して「チクデンチ テンケン ケッカ」を選択し、決定スイッチを押す

次画面スイッチ／前画面スイッチで、「蓄電池点検結果」画面と「蓄電池点検日時」画面の表示を切り替えることができます。



蓄電池点検結果は、正常、注意、異常、未実施で表示します。書き込みデータを保存して再起動が行われると蓄電池点検結果は未実施となります。

蓄電池点検の結果	内容
正常（セイジョウ）	蓄電池の電圧は正常です。
注意（チュウイ）	蓄電池の交換時期が近づいています。
異常（イジョウ）	蓄電池の交換が必要です。非常用蓄電池では未接続の状態で蓄電池点検を実行した場合も「イジョウ」と表示されます。
未実施（ミジッシ）	電源投入後から蓄電池点検が実施されていません。業務用蓄電池では未接続の状態で蓄電池点検を実施した場合も「ミジッシ」と表示されます。

重要
- 蓄電池をお買い上げ直後は、充電が十分でないため、蓄電池点検結果が、異常、注意となる場合があります。これは、満充電に至る過程での表示であり、故障ではありません。

蓄電池の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する

感電の原因となります。

- **蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。**
- **点検の際容量不足があれば、新品と交換してください。**
- **蓄電池の交換時期は約4年です。**
  4年を経過すると性能が低下してきますので、蓄電池の電圧状態が正常の範囲内でも交換してください。
- **交換した蓄電池の取り扱いは注意してください。**
- **蓄電池交換の際は、交換前と同じ品番の蓄電池をご使用ください。**

- **不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。**

Ni-Cd

保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が**義務づけられています**。
- 建物の規模、用途によっては**消防設備士**または、総務大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、保守点検契約の締結をおすすめします。
- 保守点検契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」·「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから**保証期間内であっても定期点検業務については有償となります**。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

機器の状態	対処方法
主回路／非常電源表示灯が消灯している	主回路／非常電源表示灯は、本機の回路電圧が正常動作するための電圧になっていることを示します。 ●停電でないときに消灯： 本機に常用電源（AC100 V）が供給されていない、回路故障、または電源部内の回路ヒューズ切れが考えられます。 ●停電のときに主回路／非常電源点検スイッチを押下点検で消灯： 蓄電池が充分に充電されていないか、蓄電池が寿命の可能性が考えられます。蓄電池の交換時期は約4年ですが、使用環境や条件によって期間は異なります。ただし、下記の場合は故障ではありません。 蓄電池をお買い上げ直後は、充電が充分でないため正常点灯（緑色）しない場合があります。満充電の目安は約24時間です。
充電中表示灯が消灯している	蓄電池への充電回路の動作状態を示します。 充電表示灯が消灯している場合は、充電回路の故障または、電源部内部の回路ヒューズが切れている可能性が考えられます。 この場合、蓄電池は充電されていない可能性がありますので、停電時に非常放送ができない可能性があります。
異常表示灯が点灯している	●液晶画面に異常表示： 本機に異常が発生しています。発生原因については、発生時に液晶画面に内容が表示されます。異常表示は、スイッチカバー内の取消スイッチで消すことができます。消してしまったあとのエラー内容の確認は、取消スイッチの長押しで確認することができます。 ※異常の発生履歴は、「書き込みモード」中の「動作履歴画面」で確認することができます。詳しくは、施工説明書をお読みください。 ●コンピューター制御スイッチを「切」にしている： 本機が正常に動作しないときは、スイッチカバー内のコンピューター制御スイッチを「切」にすると、一時的な緊急対応として本体マイクで一斉放送を行うことができます。このときも異常表示灯が点灯します。 「切」設定後、「入」に戻して正常に動作するか確認してください。問題が解決しない場合には、電源を再度立ち上げ直して正常に動作するか確認してください。
＜エラー＞ツウシン が液晶画面に表示されている	非常リモコン（WR-EC310／WR-EC320／WR-EC330）と通信ができていません。 接続されている装置の故障、または本機から電源が供給されていない（非常リモコン端子基板上の電源ヒューズ切れ）、接続されているケーブルに問題がある可能性が考えられます。
＜イジョウ＞パワーアンプ が液晶画面に表示されている	内蔵されている電力増幅ユニットの異常が考えられます。具体的には、空冷ファンの異常（WU-PK312、WU-PK327、WU-PK342）、内蔵ヒューズ切れ、異常な温度上昇が発生した場合に表示されます。 動作履歴画面で確認することができます。詳しくは、施工説明書をお読みください。

機器の状態	対処方法
<イジョウ>SPカイセン が液晶画面に表示されている	スピーカー回線の短絡が考えられます。短絡を検知したスピーカー回線番号が表示され、異常検知したスピーカー回線はスピーカーから切り離されます。当該回線を使用した場所への放送はできません。通常状態または業務放送状態で非常復旧スイッチを押すと復旧します。
<イジョウ>ホンタイマイク が液晶画面に表示されている	非常／業務放送兼用マイクロホンのマイクロホンケーブルの断線、プラグの抜けが考えられます。確認してください。
<イジョウ>デンゲン が液晶画面に表示されている	短絡が考えられます。非常外部制御端子に接続された配線や接続機器に異常がないか、確認してください。
SDカード　カクニン　デキマセン が液晶画面に表示されている	本機がSDカードを認識できていません。SDカードが正常に挿入されていないか、挿入されているSDカードが本機対応品でない可能性があります。詳しくは、施工説明書をお読みください。
データニ　イジョウアリ サギョウヲ　チュウシシマス が液晶画面に表示されている	SDカード上のデータに異常があり、書き込みできませんでした。書き込み対象データを設定支援ソフトで読み込み、正常かどうかを確認してください。 局数や電力増幅ユニットW数の設定が本機と一致していない可能性があります。
カキコミ　ニ　シッパイ サギョウヲ　チュウシシマス が液晶画面に表示されている	本機へのデータ書き込み、またはSDカードへのデータ読み出しで異常が発生しました。SDカードが本機対応品でないか、SDカードにライトプロテクトが設定されている可能性があります。詳しくは、施工説明書をお読みください。
スデニ　ソンザイ　シテイマス ウワガキ　シマスカ？ が液晶画面に表示されている	SDカード上に同名のファイルが存在しています。上書きしてもよい場合は、決定スイッチを押してください。上書きしたくない場合は、取消スイッチを押してください。
メッセージ　ソウシュツチュウ ショリ　ヲ　チュウシ　シマス が液晶画面に表示されている	業務放送で本機内蔵のメッセージを再生中に、動作履歴の初期化が実行されたときに表示されます。再生完了後に、再度書き込みを行ってください。
SDカードヘノ　ヨミダシヲ モウイチド　シテクダサイ！ が液晶画面に表示されている	SDカードへのデータ読み出し中に、非常放送や緊急放送が起動して作業が中断されたことを示します。再度データの読み出しを行ってください。
ガイトウスル ファイル　ガ　アリマセン が液晶画面に表示されている	SDカードからデータを読み込むときに、該当するファイルが存在しませんでした。SDカードに必要なファイルが存在しているかどうかを、PCで確認してください。
SDカードからの書き込みで ファイル名が表示されない	SDカードに書き込まれたファイルの拡張子が違います。ファイルの拡張子を正しく設定してください。 SDカードのドライブ直下に置いたファイル数が多すぎます。35以下にしてください。詳しくは、施工説明書をお読みください。
音声がスピーカーから出力されない	出力対象のスピーカー回線が選択されているか確認してください。 出力対象のスピーカー回線の「スピーカー回線容量設定」が「ミセツゾク」になっていませんか？適切なスピーカー回線の容量に設定してください。詳しくは、施工説明書をお読みください。
BGM放送が途切れる	BGM放送の起動を音圧検知で使用する場合、楽曲によっては無音区間などでBGM放送制御が途切れることがあります。この場合、音量差が少ない音源や無音区間のない音源をご使用いただくか、BGM制御端子でBGM放送を行うようにしてください。

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電　話	（　　）　－
お買い上げ日	年　月　日

修理を依頼されるときは
「故障かな!?」（40、41ページ）でご確認のあと、直らないときは、まず電源を切って、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	壁掛形非常用放送設備
●品　番	WK-EK310, WK-EK320, WK-EK330
●故障の状況　できるだけ具体的に	

必要なとき

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。
保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。
※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	**診断・修理・調整・点検などの費用**
部品代	**部品および補助材料代**
出張料	**技術者を派遣する費用**

※補修用性能部品の保有期間　7年
当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

非常用放送設備機器に関するお願い

機器の正常な動作のために、定期点検と日常的な確認を行ってください。

非常用放送設備が設置された防火対象物の所有者、管理者又は占有者は、消防法、その他関係法令によって、非常用放送設備の定期的な点検と報告が義務付けられています。

機器点検　　6ヶ月に1回以上
総合点検　　1年に1回以上
（消防庁告示より。平成19年7月1日現在の情報です。常に最新の関連法令にしたがってください。）

日常の確認において以下のような状態であった場合には、機器が正常に動作しない原因となりますので、ただちに販売店または保守契約店に連絡してください。

特に10年を超えてお使いの場合、故障の発生確率が高まり、正しく動作しないおそれがあります。
点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。
詳しくは、販売店または保守契約店に相談してください。

このような状態ではありませんか？	販売店または保守契約店に連絡してください
● 蓄電池の交換を行っていない。 ● 蓄電池点検スイッチを押しても、表示灯が緑色に点灯しない。	蓄電池は使用しなくても寿命があります。 4年を経過したら、販売店または保守契約店に交換を依頼してください。
● 電力増幅ユニット前面の通気孔からの吸い込みが弱い。ほこりがたまっている。	蓄電池の交換に合わせて、販売店または保守契約店にファンの交換を依頼してください。 通気孔のほこりは取り除いてください。
● 音がひずんでいたり、聞こえにくかったりして、十分な音量や明瞭な音質が得られない。 ● ときどき、音が途切れたり、音にノイズが混入したりする。	法令で規定された音圧が取れていない可能性があります。 販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
● 壁などに取り付けてある製品をさわるとぐらぐらする。	取付ねじがゆるんでいる可能性があります。 販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
● 操作スイッチにほこりがたまっていたり、変形や破損している。	操作スイッチが動作しない可能性があります。 販売店または保守契約店に点検を依頼してください。
● 液晶画面がはっきり表示されなくなったり、操作面の印刷表示が消えて読みにくい。	正しい操作が行えない原因となります。
● 外観に変形や破損がある。	販売店または保守契約店に点検を依頼してください。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル 0120-878-410（パナハ ヨイワ） 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://panasonic.biz/cns/cs/cntctus/

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社　コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531　福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Corporation 2020

PUQX1007ZA
FSe0920-0
Printed in China